無産階級運動

進め

第三年 ◆ 六月 ◆ 第六號

進め社

進め一部拾錢

大正十四年六月一日發行(毎月一回一日發行)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六月號目次

卷頭言……………………櫻田雲助
◆社會主義の社會に就て(一)……猪俣津南雄
◆社會の柱は誰か……………鈴木厚
◆大衆運動の意義を明かにす……佐野袈裟美
◆フランス共產黨の新組織……小牧近江
◆大衆教化に就て………………山川亮
◆政界より觀たる今日の獨逸(一)…稻垣守克
◆無產大衆に訴ふ……………渡邊信義
◆勞働總同盟分裂問題…………關東地方評議會側
◆岡山の同志へ再考を促す………松田敏一
◆日本社會主義運動の展開期……虎之門小助
◆進め社便り……………………

全土戰報……………………

◆朝鮮階級運動の轉機…………長沼明
◆北陸農村運動への一考察……黑子久生
◆近世社會主義史(八)…………春田正
◆アメリカ奇談…………………前田河廣一郎
◆飢えたる心(詩)……………
◆朝鮮便り……………………
◆讀むべき良書の紹介…………

社告

原稿の責任に就て

今更云ふ迄もないが、「進め」は無產大衆の者である。この大義に基いて我等は全紙面を解放しこの雜誌を發行してゐる。從つて「進め」は我等のものであつて我等のものではない。故に編輯者は原稿の選擇權は有するが署名者以外の全責任迄も負ふものではない。一つの攻擊も、それは事實であると信じ、眞の無產階級運動を攪亂せぬ者であると信ずれば即ち投稿する。が種々混み入つた事情が起らない場合がないとも限らない。そこで結局は、やはり當事者が無產大衆の意義を飛躍迄解するか否かによつて決せられる。ために「進め」は或時は官僚的私間に向つて攻擊の矛を向ける時もある。再び言ふ「進め」は社會主義の精神に基いて無產大衆の使命を果すために、懸命の努力をなすものである。

打開期に際して
地方靑年に!

日本社會主義運動の肉勢力は最近に至つて殆んど一段落をつけた。そして更に地方を背景とした新勢力が健實な底力をもつて勃興せんとしてゐる。今その打開期である。この重大時期に際して切に地方無產靑年諸君の自覺を望む、新勢力は、我等のその日迄續くものである。否その日を過ぐるも新建設の重務を負ふものである。

最近『進め』の紙面を利用してくれる地方靑年の多くなつてきたことを心から喜ぶ。今後かうした人達に對して我社が、社會主義研究の大著を選出し、共に研究をやつていきたい。これを約束する。

進め宣傳叢書の發行

『進め社』では、何かよいパンフレットをだしてはどうかと云各方面からの要望で、今度六月からできるだけ毎月だして行く事にしたた所で何がよからうかと相談してみた所、やはりなんといふても、未だ日本に、最も正確で、わかりやすく、而も廉價に、社會主義とはどんなものであるか、どういふ歷史をもつたものであるかといふものをかいたものはない。でさしあたり、六月中に、石川準十郎氏と春田正氏にお願ひして次の二冊を發行することにした。

◆

第一輯、石川準十郎氏著『社會主義とは何か』。誰にも解る樣に社會主義の內容をのべたもので、頁數と定價が未定だが、體大三十頁代十錢位ひのものにしたいと思つてゐる。

◆

第二輯、春田正氏著『社會主義の歷史。』通俗に、社會主義史の變遷をつかんだ絶好の書。

(內容)

一、緒論

二、初期のフランス社會主義
　——サン、シモン——フーリエ——ルイ、ブラン——プルードン

三、初期のイギリス社會主義
　——ロバート・オーエン——チャーチズム——キリスト敎社會主義

四、ドイツ社會主義
　——ラッサール——ロードベルトス——マルクス

五、初期のマルクス主義運動
　——第一インターナショナル
　——ドイツ社會民主主義運動

六、無政府主義及サンヂカリズム
　——無政府主義——サンヂカリズム

七、ロシア社會主義

八、イギリス社會主義

九、各國社會主義運動
　——ドイツ——フランス——其他

十、新インターナショナル
　——第二インターナショナル
　——第三インターナショナル

十一、結論

潜勢力を養ふ可き時期

―臥薪嘗膽捲土重來を期せ―

■[illegible]法案治安維持法案は、遂に去る五月十二日を以て愈々實施された。一代の恐嚇政治は斯くて遂に幕を切つて落された。噫、五月十二日！我等日本無産階級覺醒部分はこれを阻止すべくその最善を盡して而して後に斃れた。我等はその爲すべきことを爲した。かくて我等の耳に響くものは、[illegible]に湧き上る日本支配階級の凱歌である。

■然りと雖も、[illegible]敵の強さを見て更に勇を増すは、古來革命男兒の本領である。[illegible]、我等の士氣は更に奮はねばならない。臥薪嘗膽、捲土重來、今こそその時期である。

■由來新時代展開の決定的勢力なるものは、常にその猛烈な壓伏時代に於て養成され蓄積されるものである。所謂「記錄されたる歷史」はこの事實を實證して居る。長い間不自然乃至不合理に鬱積された力こそは、やがて爆發、噴出すべてを決する力たるものである。我等は今や實にその壓伏時期に差し掛りつゝあるのである。

■思ふに、日本支配階級は今後益々所謂社會政策を施して行くであらう。既成政黨は競ふて社會政策を標榜するに至るであらう。然し、社會政策で現社會の貧乏が救はれ無産階級の生活が解放され得るものならば問題はない。然し乍ら、社會政策とは、資本主義の根本制度をば大體そのまゝにして居てこの世より貧乏を驅逐せんとするものである。その遂に不可能なること火を見るよりも明らかである。日本無産階級（全人口の約九割を占むる）の生活は、今後益々不安を深くして行くであらう。

■日本の資本主義の發達が今どこ迄到達して居るかを正確に知ることは、容易でないけれ共、兎に角最早成熟の域に達して居ることは、所謂恐慌（不景氣）の周期的襲來に見ても明らかである。恐らく、今後の無産階級の生活の不安はいや增す一方であらう。

■生活の不安の增進に伴ふ人心の動搖の增大と、[illegible]とに依る壓伏とは、相俟つて社會主義のためにその潜勢力を養ふ可き好時機を與ふるものである。我等は今こそ臥薪嘗膽よく潜勢力を養成蓄積して、捲土重來の日を期すべきである。（雲助）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義の社會に就て（一）

猪俣津南雄

一

理想に溺れて空想に陷することは、ソシアリストの最も恐るゝところである。が、しかし、來るべき社會主義の社會が凡そ如何なる性質、組立のものであらうとするかと問はれた時それに答へ得るだけの研究はもちろん出來てゐる。

社會主義の社會が、或定まつた型に落ちつくと考へてゐるソシアリストはない。却つて無限に進歩するものと考へてゐる。と同時に現在の資本主義社會の直後に來るべき眞の社會もまた、資本主義社會からの一歩であり、資本主義社會のうちから進化し出つるものだと信ずる。

ソシアリストの理想はといへば正義、愛、自由、發達した個性、高き人格といつた風な言葉で現はし得るところの至極平凡なものに過ぎない。そして、多くの所謂宗教家や道德家や教育家や爲政者が「痛歎」する通り、今日に於て之等の理想が悉く蹂躙されてゐることを誰よりも先きにソシアリストは認める。が、ソシアリストの信ずる所によれば、泣き言や諦めや祈りや訓話や刑罰や乃至はまた切り張式の改良主義で人間や社會をよくすることは出來ない。此の險惡な世相の底には、或冷酷な壓倒的な力、經濟組織の力が絶えず働いてゐる。今日の民衆は自身が支配すべき經濟關係の爲めに却つて支配されてゐる。從つて、すくなくとも此方面に於て根本的な立直しをやらなければ、個人及び社會の生活基調を一新するは不可能である。社會主義的改造の焦點は斯くしておのづから先づ經濟關係に集まるのである。

二

謂ふところの經濟的改造の一大方針は、現制度の下に於て既に行き詰つてしまつた社會的生產力を發展させることにある。それが爲には生產の目的と分配の方法を一變し、資本所有者の個人的利益を目ざして生產する代りに民衆の共同福祉を目安にして生產し、既に多くを所有する不勞の徒をしてます〳〵多くを所有せしめるやうな分配方法の代りに、社會及び個人の必要と能力とを標準とする分配が行はれねばならぬ。そしてそれは、資本による勞働の搾取が廢止される時にのみ可能である。資本對勞働の搾取關係を無くすることは、その結果に於て社會的生產力を發展させることになる。社會主義社會の主要特徴の一つは、搾取の廢止であり、搾取の廢止とは一口に言へば經濟上の強食弱肉主義の廢止である。又の名を我利々々主義とも云ふ此の強食弱肉主義は現社會の生產を無秩序にし多大の社會的浪費を生ぜしめてゐる。前者を廢することによつて社會主義の社會は無駄の少い序立つた社會になる。

三

もつと具體的に言ふと、社會主義の社會は、搾取を無くする爲に事情の許す限り生產機關を公有にし生產者全體の共有にする。今日では會社企業に屬する生產機關は株主等が共有してゐる。共有なるものは別に珍らしいことではない。たゞ訝かしいのは、共有者たる彼等が生產的作業には全く沒交渉で當の生產機關を如何に使用すべきかを知らず、如何なる生產機關を所有してゐるかさへも知らずに、而も所有から生ずる利益の總てを懷ろにする點である。或制度の下に於ては、かゝる人間さへもが生產機關を共有し得るのである。で生產の諸機關をば實際の仕事をする生產者――勞働者、事務員、技師、支配人――等の共有にするといふ制度は、當然且つ自然なる事態を實現させる迄のものである。

また今日でも、電車、鐵道、瓦斯、金鑛、藥品、等、等、に關する施設物乃至生產機關は、多數公衆の利害にかゝはる所極めて大なりと言ふ良き理由で、都市や國家の如きものに依つて公に所有されてゐる。此種の事業は、一地域に生活する人々全體の共有と見做され、その生產は專ら公益の爲めに行ふものとされてゐる。然るに、造船、電氣、紡績、製紙、製藥、化學及び機械工業、鐵、石炭、石油、保險、銀行、等、今日の大資本經營の營利事業を見れば、一として多數公衆の利害に係はること深大ならざるものはなく、公有範圍をこれらのものに及ぼしてならぬといふ理屈は、屁理屈の外にはないのである。社會主義的社會は、全民衆の福祉の爲めに先づすべての大事業を公有にする。

四

資本的搾取には直接なると間接なるとがある。使つてゐる人間に十分な報酬を與へずして儲けるのは直接搾取、消費者に高く賣つけて儲けるのは間接搾取である。安く働かせて生產させた物を高く賣るから獨占的大資本家は間違ひなく儲かる。取るかねが少くて買ふ物が高いから多數民衆は間違ひなく生活難に苦しむ。多數の人間を傭つて生產し、生產制限で價格を釣上げてゐる大きな會社企業を公有にすれば、大仕掛の直接搾取を無くすると同時に大部分の間接搾取を無くすると同時に大部分の間接搾取をも廢することが出來る。それと共にまた、合同やトラストの場合と同じやうに中小企業を整理することになるから、各產業部門が組織化されて能率が高まる。加ふるに、今日の各種の產業部門のあひだには密接なる有機的關係があるのだから、排他的利慾主義の經營は自殺的である。大事業はすべて原則として之を公有となし、公有の基礎の上に相互助長的な關係を確立し、爾餘の諸事業に對してもそれに準じて意識的に統制を

行ふことによつて初めて社會の生産と分配とが滿足に行はれるのである。

五

資本主義から社會主義に移る際に、如何なる事業、如何なる生産機關を公有にするかは、その時の各階級の政治的勢力の如何と、その時までに到達した社會的經濟的發達の程度如何に依つて決定さるべき事實問題である。

例へば、生産機關の所有者自身が生産的勞働に從事してゐるやうな小事業を公有にすることは不可能であるし、その必要もない。大きな公有事業がみな營利主義を廢してそこに勞働する大衆が十分なる報酬を得、且つ一般に報酬の最低限を法定し、勞働組合が十分に活動することになれば、私營の小事業に傭はれる者と雖も今日のやうに搾取される筈はない。もし小事業の所有者が普通以上の所得を得ることがあれば、それは搾取から生ずるものではなく、生産的勞働者としての彼自身の技能の優秀に對する「特別賞與」風のものであるであらう。もしまた何等かの理由で其事業が大きくなる場合には、公有の原則を適用して公有にする。大經營になり得る性質のものなら大きくした方がよいのだらう。其種の事業に對しては纏め組合經營を奬勵するも一策である。

すべて個々人の注文を受けてする生産、はやり廢りの激しい特殊の物品の生産、特殊の技能や個性の現はれによつて需要される物品の生産、等、は、個人または組合にまかせるをよしとする。また新奇なる事業の如きも其性質によつては大いに個人の工夫と試みに依頼すべきである。事業の規模、種類、性質によつて所有と經營の公私を決し、私有私營の場合には當人の經營や資格や能力と當の計畫とを調べた上で公設の信用機關から融通することも出來やう。組合經營となれば尚更さうである。

六

農業に於ても、公營と組合營と個人營とが並び行はれて差支ない。作物の種類、耕作の方法、規模の大小、地方々々の自然的及び社會的條件に應じて最も適切な經營形態を選定してよい。

公營の諸農場は、常に其地方に於ける模範的指導的地位に立つべく努める。個人營、組合營にあつても、或場合には消費者及び農家の双方の利益を目的として其生産物を中央機關の專賣にする。或は各都市の公設市場がそれを買取る乃至はまた生産者（農家）が販賣組合を作つて賣いだす。いづれにせよ纏まつた取引には公設の信用機關が介入してすべてを圓滑ならしめるであらう。

土地は原則として公有にする。が、家族勞働本位の農家なら土地の私有から生ずる弊害は少い。土地の分配や處分に就ては、國法に定めたる大綱の範圍内に於て村や其他の自治的團體の意思を尊重する。多數人が勞働する農場の場合、自ら耕作せずに他人に貸す場合、投機の目的に供する場合の如きにあつては、土地の私有はもちろん論外である。それらはみな直接間接の搾取關係を生ずるからである。共働共榮の組織たらうとする新社會が、從來の如き坐食の地主を容れる餘地を有せないことは多言を俟たない。

七

社會主義的社會に移れば商業の範圍は著しく縮小する。各種の大事業が公有化されると共に、それらに關係してゐた仲買業や卸業その他の大規模商業はおのづから不必要になる。また、地方の小生産者の生産物を買集めて都會へ出す方の商業も大部分無くなる。なぜなら、小生産者等は販賣組合を作るし。消費者は消費組合を通じて供給を受けるか乃至は公設市場を利用する。都會小生産者の生産物が地方農村へ行く場合の關係も大體同樣である。もちろん都會にも若干の小賣商は殘るであらう。が、彼等が於ける「利益」なるものは、もはや資本所得ではなく勞働所得の性質のものになり且つ多くの小賣業務は老人や婦人の仕事に適したものになる。

海外貿易の大部分、わけても生活必需品や重要產業の原料補助料機械類其他の輸入が、公營によらなければならぬは言ふ迄もない。

八

以上の如き產業組織の立直しの結果、一方には其まで利潤利子等の形に於て各種の大資本家や大地主に歸した價値の部分……恐らくは年々生産される價値總額の半分以上——が浮き上り、他方には整理と組織化に基く浪費の減少及び社會的生産力の高上によつて年々生産される價値の總額が增す。其の剩餘部分の價値と此の增加部分の價値とは、差し當り、社會主義的社會が合理的に處分し得る所のものである。其一部は、社會の產業の擴張に向けられねばならぬ。殘る部分の價値は、大體二つの方法によつて直接に全民衆を利益し其生活程度を高める。即ち、或は報酬の增加といふ形に於ては低廉なる生産物となつて、年々個々の勞働者即ち民衆のすべて……に分配されるか、乃至は諸般の公共的文化的施設、保健、保安、研究、調査、教育、その他の費用に充てられる。

で、續いて起る問題としては、此の分配の問題があり、それに關聯して生活の保證及び職業の選擇の問題がある。また、生産の方面に於ては、公有事業の管理經營の問題が殘つてゐる。そしてそれらの綜合ともいふべきは政治組織の問題である。そして、社會主義的社會が果して之等の問題を滿足に解決して行けるか否かを決する至重なる一要素として、該社會に於て行はるべき新しき教育の問題があるのである。（未完）

（此の小文は四月廿一日及廿二日に松江米子兩市に於てなしたる講演の大要である）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大衆運動の意義を明かにす

佐野袈裟美

一

無産階級解放運動の大衆化がこの二三年しきりに論議され、また一般の運動もその方へ向ひつゝあるやうであるが、しかしまだ大衆化の意義が本當に徹底してはゐないやうである。この際もつとこの意義を徹底せしめておかないと、日本の無産階級の解放運動の陣列がいたづらに混亂し、却て取り返しのつかないことにならないものでもないやうに思はれる。

これ迄の日本の社會主義の運動を見ても、勞働組合の運動を見ても、徒らに小異を立て、徒らに議論に陷り、小さい團體に固まつていがみ合つてゐるといふ有樣で、無産階級の共同戰線へと大同團結を見るに至らなかつたのは日本人の島國根性の缺點をあからさまに暴露したものと言はなくてはならない。この無産階級の解放運動に於ける島國根性を取り去らない限り、日本の解放運動は先つ絶望だといふより外はない。

私の直接關係してゐる政治研究會に於てもよく感ずることであるが、會員の中に、古い社會主義者の型ともいふべき人々がよつて議論の爲めに議論をしたり、わざと異論を立てゝ見たり、あげ足取りや、一寸した手落なんかをむきになつてつゝ込んで見たり、反對でもしなければ自分の存在價値が認められないのとでも思つてゐるやうな[illegible]をして得意になつてゐる妙に批評家的でとげ〳〵してゐて、強て自分の意見を通さうとし、自分の意見が通らないと、たちまちすねたり、喧嘩腰になつたり、つまらないことに力み返つてゐる。妥協性がなく包容性を缺き全く個人主義的に行動をしてゐる者のあるのを見受ける。これ等の人々は大衆運動の何ものであるかを全く理解してゐないのである、徒らに波瀾を起し、内部を分裂させるやうな陰謀をめぐらし、自分の勢力を張らうとしたりするのは最も團體運動にとつて害があるのである。かうした舊い型の社會主義者……少數集まつて勝手な議論をし、勝手な行動をして居つたひねくれた我儘者は、どうしても大衆運動に加はる人達ではない。大衆の爲ふところに從つて我を捨てなくてはならず又時には妥協もして行かなくてはならない……常に大きな流れに投ずる氣持がなかつたならば、到底運動は發達するものではない。政治的な訓練に乏しく野そだちな人達には全く弱らせられる。

二

個人として前節に述べたやうな偏狭な人達があつて統一ある運動を攪亂してゐるやうに勞働組合の場合に於てもかうした偏狭な島國根性に支配されてゐるのを見るのが少い。實に狹小位厄介なものはない。日本の勞働組合が小黨分立で、統合された大同團結を見るに至らないのもこれが爲めである。ある一つの共同的な運動をしようとする場合に、組合と組合との交渉をなし、うまく折り合ひをつけて行かうとするには、現在のやうな狀態ではなか〳〵困難である。俺の組合を無視したとか、正式に交渉しなかつたとか、勝手に主催とか發起側に名を連らねるやうなことをして貰つては困るとか、實にいろ〳〵な苦情がもち上つて、まとめるに容易なことではない。その運動が無産階級の解放運動上よいことであるならば、多少の手落ちなどは許して、その運動に投ずべきであるが、さうした包容性がなく、徒らに文句ばかりを並べ立てゝ、議論を沸騰させることを以てうれしがつてゐる、まことに情ないことである。

これは最近「治安維持法撤廢同盟」を成立させるについても起つたことである。どうしてもう少し虚心坦懐になれないのであらうかつまらないことにこだはつてゐるのは愚の至りである。重箱のすみをつつき廻してゐるやうなことでは、日本の勞働運動も發達しない小さい黨派に分れて小ぜり合ひをつゞけて行かなければならないであらう。それがどの位無産階級の運動を力弱いものにしてゐるかしれない。運動の大衆化なんかこれでは到底望み得られないと斷言するより外ないであらう。

こんな狀態では、すべての勞働組合をもうらした總聯合などはいつ實現することであらうか。まことに心細い次第である。この際大に考へなくてはならないと思ふ。

三

大衆化は直ちに右傾化を意味するものではない。しかるにこれをはき違ひてゐるものもすくなくないやうである。大衆化は要するに戰術である。日本の無産階級運動を大に發展せしめる爲めに大衆の中へ食ひ入らうとする戰術である。右傾する爲めの右傾ではない。現在の日本の政治上經濟上社會上の諸事情及び民衆の自覺の程度を考慮して、最もこの現實の形態に適した運動をしようといふのである。無産階級の最後の目的である解放の何であるかを閑却して、いたづらに時流に迎合し、墮落することであるならば、寧ろ少數であるにしても、はつきりした[illegible]に目覺めた眞の闘士のみがしつかりと綱領をまもつて、[illegible]段の來るのをまつてゐる方が増しかもしれない。ただ吾々はさうしたいつ來るか分らない未來を呑氣にまつてゐることは出來ないので、大衆の覺醒を早める爲めの大衆化の方へと運動を進めつゝあるものに外ならない。

日本のいろ〳〵な事情が[illegible]つてはゐるものゝ、こゝ數年の間に大衆化が持ち來たされようとは思はれない。今のところ徒らにあせつても駄目である。如何にもどかしがつても仕方がない、まだ倒れさうでも資本主義は底力をもつてゐる。惰性でしばらくはこのまゝつづくものと見なくてはならな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

い。かうした現實の事情に適した運動の方法をとることが肝要である。その爲めの大衆化である。解放運動の彼乃の目的を見うしなうやうな右傾化に陥るならば、それこそ取返しのつかないことになる。

四

日本勞働總同盟の分裂問題については、いろ〳〵考へさせられることが澤山ある。大正十三年の大會での所謂劃時代的といはれる方向轉換の宣言以來、大衆化の精神がはき違へられて行くやうになつたことは何といつても否まれない事實である。政策上の右傾が本ものの右傾にならうとしてゐる。そして左傾派を放り出さうとすることは、餘りに雅量のない偏狹なことであるといふそしりを免れることは出來ない。しかしまた一方左傾派の組合のやり方にも、餘りにあせり過ぎ、自分達の方の勢力を植え込まうとする所謂乘つ取策に多少小兒病的なところのあつたことも、また見のがすことは出來ないであらう。つまりどちらの側にも非難さるべき點のあることを公平な第三者の立場からは認めざるを得ないのである。

お互に餘り醜い惡口の言ひ合をしてボロを出すやうなことはしてもらひたくないものである。總同盟も分裂するものなら、寧ろいさぎよく分裂して、更に全國的な總聯合へと向ふやうな方法を講ずべきであると思ふ。東京の市電自治會などにも內紛が起つてゐるやうであるが、爭ふものならば徹底的に爭つて、早く解決をつけ、更にそれを飛び越えて新しい道を開拓して行くより仕方がないであらう。たゞこの際必要なことは、日本の無產階級運動が大きな發展を見ずに、小ぜり合ひをしてゐるやうな狀態にあるのは、何に原因してゐるかその缺陷を十分に認識することであると思ふ。そしてお互にその缺點に氣付いて其處から脫出することが出來れば、共同戰線に統合され、眞の大衆化を實現することが出來、めざましい發展を見るに至るであらう。（完）

ごす黑い婆婆

樋口見德

金はないかなあ
つまらなそうな顔出せば
惜しみなく生はあくびするなり

×

孫つれて
盲の翁夏近かき
夜の銀座に尺八吹きぬ

×

耳近かき
物知り顔の猥談に
笑はれもせず窓をのぞけり

[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大衆教化に就て

山川亮

都會の勞働階級の青年は、既に階級的にも充分に自覺してゐるし、またその爲めの教育機關も不充分ながらも、少しは設けられて、講演に小冊子に、または勞働學校に夫々各自の希望次第で、智識の吸收も自由であるが、一度、都會を離れて田舍へ行くと、汽車の便利のある所でさへも、かなりに其點は不便を感ぜさせられるそれにブルジョアカルトとしての、工業農業の補習學校や、青年團備へ附の圖書はあつても、それらの教育や圖書は、充分に吟味の上で採用せられるから、プロレットカルトの要をなさない。どうかした間違ひで、共方面の書籍が入つて來ても大抵はそれが、むづかしい學問的な研究書なので、中學へも入れないプロレタリア青年には、容易にそれが讀破できない。また特殊な篤學者があつて、それを讀まうとしても、圖書管理者が、種々な理屈を附けて、容易に貸出しを許してくれない。その一例として、某市の市立圖書館では、社會問題の書籍に限つて、借出人の職業學歷を調査した上で、貸出しを許してゐる。借出人が若し中學卒業以上でなく、また勞働者であつた場合には、いゝ加減な口實を設けて、貸出し拒絶をやつてゐる。また他の一例として、某縣の青年團にあつたと云ふことだが、河上博士の唯物史觀研究が、どう紛れ込んだのか青年團備へ附の圖書中にあつたのを、ある小作人の青年が借り出して來て讀んでゐると、數日後に團長から、突然その本を返却せよと云つて來た。樣子を搜つて見ると、唯物史觀の研究を、歷史本か何かだと思つて、管理者の方では何の氣なく貸したのだが、後でそれが有名な社會問題の本だと判明して、慌てゝ團長が返却を迫つたのだと知れた。是等はまるで造り話樣にの馬鹿〱しいのだが話此程度迄に、プロレタリア青年に對するプロレットカルトの防止は、程度の差こそあれ、全國の農村並に小都會に於ては行はれてゐる。だからこれ等の田舍に住む青年が、プロカルの智識を得やうとするには、その人間が既にその地方に於ける金箔附の人間とでも、ならなければ、さうした小冊子にしろ、容易に手には入らない況んや講演を聞くとか、講義を聽くなどとは、夢にも願へないことであるそして既に金箔附となつて了へば今度は郵便物が再々調べられるかまたは押へられる事さへも覺悟しなければならぬから、どうしても都會と比べて、農村の青年は思想的に立後れとなる。農民組合や水平社でも組織されてゐる所ならばその方面からして、種々な智識が齎されるから、不充分ながらも、その組合とさへ親しくして行けば自己の希望次第で、プロカルの小冊子も手に入るには入る。然しそれらと關係のない地方に住んでゐる、プロレタリア青年は、結局、前述の如き壓迫を絶えず受け續けて、ブルジョアカルトの爲めに壓倒されて行く。また幸ひにして研究書を手に入れたにしても（その種類の本は普通の書籍店でも取次ぐから）、讀んで行く裡に、疑問難解が續出する。そしてその疑問を解いて貰はうとするには、その人がゐない。またあつた所で、多くはその人達はブルジョア階級に屬するから、勢ひ冷淡でもあり曲解もして聞かせる。すると此方は基礎的學問の不充分な所へ持つて來て、ブルジョア的なコケ脅かしの論理でやられるから、折角芽生えて來た智識が、一溜りもなく摘み取られる。

どうしても小冊子を數多く撒布しなければならぬのだが、實際を見ると、どう云ふものか、プロレタリア青年の多くは、この小冊子を輕蔑する風がある。それには作られた小冊子の方にも、何か缺點があるのかも知れないが、其他に讀者側にも、その小冊子に對するだけの智識すらも缺けてゐるのではないかとも思はれるのである。これが組合員ならば、周圍からの刺戟もあり、またその地方の農村青年としても、智識的に高い標準にゐるから、小冊子を輕蔑するやうなことはない。然し左樣でない農村のプロレタリア青年は、よし小冊子が手に入つても、それを精讀しない。また小冊子は精讀するのでなければ、唯單に素通り的に讀み流したのでは、完く充分に頭には入つてこない。これは智識のエツセンスだから、無理もないことだが、多くの青年はそれを讀み流しにして、無暗とむづかしい學者の本を讀みたがる。そして結局は獲る所が無いと云ふ、悲しむべき結果に終る。

一般の民衆が講說に親しみを持

断片漫語

秋峰生

金錢病に罹つて政友會とか言ふ殊種施療院に入院した親分があるそうだ。其の親分が言ふには金がなくては政治屋にはなれないとさ。で金を握るには何んと言つても政權とか云ふものにかじり附く事だそうな、政權てふものは金のなる木か知ら。

二千石諸侯の評定所で或る親分の話の一節に「國民にして此の與へられた權利の上に眠り、或はその行使に誤まるが如き」とある、なる程それは御尤だが今時の人間に選擧行使ぐらい知らん奴はなからう。又眠むつてゐるやうな馬鹿野郎はまあ我々の階級にはないが一つ我々の怪しいと思ふのはかの怪物法案だ、あれは四五年前に一寸現れて見事葬り去られたが、今度名稱を變へて出て來た、種が同じで名前が違ふなんて恰度幽霊見たようだ。

何んと言つても政治屋さんは悧巧だ、我々は此の八百長政治に滿足を强ひられる、やはり貧すりや鈍するかね、然し投票するだけが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つが如くに、この種の小冊子にも愛着を起させなければ、如何に立派な研究書が出た所で、それは極大衆のものとならなければ、即ち社會主義思想が常識となつてこない限りは、何時まで經つても、それは獨りよがりの旗振りとなつて終る。

小冊子を作る方にも、どうしたならば、誰にでも讀まれる本が出來るかと、苦心すると同時に、讀む方でも衒學的なブルジョア精神を脫却して、もつとプロらしく、この小冊子に愛着を持つ可きだと思ふ。それでなくてさへ、仲々に農村靑年の手には、行き渡らない小冊子を、むざむざと押入の隅に納つて置くのでは、實に惜いと思ふ。

プロレットカルトの實例に就ては、前々號かに梅津四郎氏が書いて居られるが、然し農村へ入れる小冊子は、餘程注意して面白く判り易く、また抽象的な議論はなる可く避けて、實例に依つて說いた方がいいと思ふ。それでなければその小冊子はブルジョア階級の靑年の、玩具にしかされない憂ひが存する。そして、それが下手をすると、却て無產階級靑年逆襲の道具に、使用されはしないかと云ふことも考へられないではない。

飢えたる心

○×△生

◇

貧苦と迫害にしばられし心に
づる〳〵深まつて行く鐵鎖の苦痛
搾取に重なり失業に深まる
反逆の血潮!
狂ひに狂ふ熱情の浪は
理性を總て盲目にする

◇

或る時はアナギズムを
想ひ或る時はボルセビキキに走り
或る時は××と×××を夢みる
又或る時は――
無抵抗主義を淚して慕ふ
變節やむなき私の心に
深く秘められた飢えたる心!

◇

俺も惡人の一人だつた
俺は社會主義者であり得るには
餘りに利己的で餘りに飢て居た
乞食が食をあさる樣に
俺はたえず何物かを求めて居た

鐵鎖の苦痛も
反逆の血潮も
飢を滿たす努力にすぎなかつた

◇

或るは――
弱い正しい者の血をすゝりとつて
成金とよばれ
　　主人といはれたかつた
食に飢えて居るのではなかつた
愛に自由に飢えても居なかつた
利己的な俺の心は
金に權勢に成功に飢えて居たのだ

◇

然し結局――
俺はまづしい
　　勞働者にすぎなかつた
色あせし勞働服に
やつれし身を包んで
下宿屋から眺めた大厦高樓
ブルジョアの歡喜の醛に!
はつきり意識した
「俺は社會の殘敗者だ」と

◇

何物かを求め樣とする努力は
やがて反逆と變つた
そこにも利己的な心は去らない
飢えは俺に愛を敎へた
けれどそれは餘かなかつた
飢は更に××を敎へた
俺は狂ふ程それに醉ふた!
結局俺は利己的な榮譽心の奴隷だ

◇

だが最後俺はハツキリ意識した
「俺は唯の勞働者だ」と
俺は自己を見出し得た
さうだ!勞働者!
それが俺の總てだ!
その他に何の力もない
飼ひ殺しの畜生の樣だ
然し幸!俺は生きて居る
尊い若さがうなつてゐる

◇

もうこれで澤山だ!
弱者をだまして勝ち得た名譽も
同志をうつて得られた地位も
××を×××してえた人氣も
總ていらない
唯新らしい光に近づいて行く
同志と堅く手を握る
その力と愛がほしい――(完)

性格破產者の呻き

樋口生

愛し得ぬ枯淡の淋しさと
虛無に追ひつめられた
自由の子　俺は
死の深沼の斷崖に
だらけ創の素足の痛さをこらへ
踏みとまるには踏みとまつたが
もう一足もふみ出元氣がなくなつたから
追ひつめて來たことの野郎に捕まられてやれ………燒糞だ

權利ぢやないからな、鈍する我等にには何だかプラス、マイナスのやうな氣がする。

これもその親分の話しだが「社會生活當然の恩惠に浴すること尙少と思惟する階級の存する云云」とあるが我々は何と恩惠に浴することが少ないからと言つてどうかう言ふぢやない。我等の當然の權利自由を或る一部分の階級のものに横取りされてゐるからそれを返せと言ふのだ。それから「社會生活の實情を省察し云々」となるほどいゝことだ、が然し一口に社會生活と言つてもとに角我等にはパンの問題が第一だ、稼いでも稼いでも尙今日もお糊が食いかねる貧乏人の生活状態が、今の政治屋さんに本當のことがわかるだらうか。

何處の家でも四斗樽に二杯や三杯は小判があるだらうね、と昔金滿家のお孃さんが言つたさうだがそんな心かどうか知らないが、米の價も知らずに、親の脛をカヂリ〳〵狹い敎室の中に閉ぢこもつて仕上げたテーブル博士の政治屋さんにだ。

どう考へても雲天井に土疊と言ふ廣ろい敎室で學んだ勞働者でなかつたら本當の政治は出來なからうと思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會の柱は誰か

鈴木厚

一

社會の柱、即ち社會を支へてゐる、社會を生かしてゐるものは誰か。社會が一番尊重し、大切にしなければならないものは誰か。社會は其れを多くの場合忘れきつてゐる、忘れきつてゐないとしても故意に考へて見ようともしない。

一體其れは、偉大な政治家であるか、巨萬の金持であるか、大藝術家か、教育家か宗教家か、軍人か誰であるか。社會はそんなことをほんきに、而もあまり深く考へると、大變めんどうなことが生ずるから考へて見ようともしない。

人間の生活を二つに大別すると、精神生活と物質生活といふものになる。そんな具合に分けて考へることがいゝか惡いかは、玆では別問題として、人間は判り過ぎてゐることが判りにくいことが屡々あるものだ。そして人間とは精神の支配の下に生きてゐるものであるか、物質の支配の下に生きてゐるものであるか、理想を食つて生きてゐるものであるか、品物を食つて生きてゐるものであるかといふやうなことを、眞面目くさつて考へるものである。極少しはかりの人間は、例外として、理想を食つて生きてゐるかも知れないが、非常に多くの一般の人間は、品物を食つて生きてゐる方である。其れは吾々の日常生活から考へて見ても明かなことである。されはキリストでさへ、飢えたるものに、先づパンを與へよと說いた。

吾々が科學的な眞理を求める場合に、極少しはかりの例外を採るわけにはゆかない。非常に多くの一般の人間に共通なものが眞理とされなければならない。この意味で、吾々は人間とは理想を食つて生きてゐるものではなく、品物を食つて生きてゐるもの、即ち精神の支配の下に生きてゐるものではなく、物質の支配の下に生きてゐるものであるといふことが言へる。そしてこれは、個人の場合に就いてであるが、社會の場合に就いても同じことである。

社會と言つても、其れは人間をはなれて存在するものではない。空中に浮いてゐるものでもなければ、地下に埋まつてゐるものでもない。其れは品物を食つて生きてゐる人間の集團にほかならないのである。だから品物がなくて人間が皆、飢え死にすれば、同時に社會も倒れ死んでしまふわけである。人間が理想ではなく品物を食つて生きてゐるやうに、其の人間の集團である社會もまた從つて、理想ではなく品物を食つて生きてゐるのである。品物がなければ一日たりとも人間が生きられないやうに、社會も一日たりとも保てない。それ故に社會の柱となり社會を支へ、社會を生かしてゐるものは、結局社會が生きてゆくに必要な品物であるといふことになる。しかしながら今吾々が問題としてゐるところは、社會の柱となり、社會を支へ、社會を生かしてゐるものは誰か、何人であるかといふのであるからして、其れが「品物」であるといふ單なる答へでは、まだ充分な解答に達したと言へない。そこで吾々は、其の充分な解答を得る爲めには、其の「品物」を何人がつくり出すかといふことに、考へを進めなければならない。そこに考へを進めた時、其れは自ら明かになる。

二

社會を生かし人間を生かしてゐる品物を誰がつくり出すか、この問題は、極單純な問題である。水や空氣のやうなものは、天然自然にあるのであつて、金を拂はなくても求められ、無價値なものであるが、少くとも人間の勞働が加はつてゐるもので、有價値で、金を出さなければ求められないものは、田舍では農夫が、都會では一般の勞働者が、これをつくりだしてゐるのである。

農夫が米や麥や野菜や家畜や其の他のものを、現在つくり出してゐるのを、吾々は見てゐる。そして其れ等の品物が、米屋や野菜物屋や肉屋等の店頭に現はれるには汽車や汽船や其の他のものゝ力をからなければならない。けれど汽車や汽船は、人の力が加はらなくては運轉しない。從つてそこには多くの鐵道從業員や船員といふものが働いてゐる。ところがまた汽車や汽船をつくるのには、大きな工場の中で、多くの勞働者がまた働いてゐる。而も其の汽車や汽船の材料即ち鐵や木材をつくり出すのには、其の背後にもまた多くの鑛山勞働者や山林勞働者といふものが働いてゐる。故に一個の品物が吾々の食膳にのぼるまでには非常に多くの、殆ど數へきれないほどの幾種類もの勞働者の働きが加はつてゐることが考へられる。

都會の勞働者の場合もこれと同じである。綿布にせよ、毛織物にせよ、帽子にせよ何にせよ、其れは勞働者や婦人勞働者や幼年工などの手によつて、つながれ、織られ或は編まれして、それから各方面に運搬されて各方面の人の手に入る。人間の生活に一日もかくことの出來ないものは、無論のことだが、金持や紳士淑女が、不斷見たり聞いたり嗅いだり、食べたり身につけたりしてゐる、あらゆるゼイタク物でさへが、みな勞働者や農夫の手でつくり出される。金貨や銀貨のやうなものでさへが、勞働者によつてつくり出される。

どんなに大きな設備でも、雲を突くばかりの建物でも、商店でも工場でも、鐵道でも、大船でも軍艦でも、一つとして勞働者によつてつくりだされないものはない。或は筋肉勞働によつて、或は精神勞働によつて、總て其れ等のものはつくり出されてゐるものである。されは社會の柱となり、社會を支へ、社會を生かしてゐるものは、明かに勞働階級であるといふことが出來るのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

然るに今日の社會では、其れが勞働階級ではなくして、金持階級即ち資本階級だと屢々あやまれ、「田畑は地主のものだし、工場は資本家のものだから、總ての品物は、地主や資本家のおかげだ。吾々がつくり出したのではない」といふやうに考へられがちである。これは間違ひである。以下少しく其の間違ひに就いて述べて見る。

三

資本家は其の特性として、常に金儲けを考へてゐる。一萬圓の資本をおろせは、一萬五千圓にも二萬圓にもして取返さうと考へる。十萬圓の資本をおろせば、十五萬圓にも二十萬圓にもして取返さうと考へる。なるほど資本家は、一見品物をつくるやうに思はれるかも知れない。豐饒な未開墾地を見ると、彼等はきつと、「これはすばらしい土地だ、資本の投下を待つものだ」と言つて、農場をつくるからだ。また非常に時節向で有利な仕事にでつくわしては、彼等は「これはすばらしい仕事だ、資本の投下を待つものだ」と言つて工場を建てるからだ。金鑛や石炭鑛が發見されゝは、其の採掘にとりかゝるし、毛織物が有利だと見れは、其の織物會社をつくるし、社會に砂糖が不足してゐて、人々が困つてゐると見れは、砂糖キビの栽培にとりかゝるだらふからだけれど其れは單に、表面の事實に過ぎないのであつて、どんなに立派な工場が建つても、農場がもうけられたとしても、或はどんなに莫大な資本がおろされて、どんなに有利な仕事にとりかゝつたとしても、そこに勞働者の勞働がないならは、また勞働者の勞働によつてつくられたところの道具や機械がないならは、一片の品物たりともつくりだされるはづがないのである。勞働者の勞働があるから、文明の道具も機械もあり、且つまたそれが運轉し、有効に用ひられて、あらゆるものがつくり出されるのである。而も農場がもうけられ、工場が建てられ、金鑛や石炭鑛が採掘され、會社が出來、等々は、資本家が一萬圓を一萬五千圓になり二萬圓になり、或は十萬圓を十五萬圓になり二十萬圓になりする爲めであつて、結局自分の腹を肥さうが爲めで、人類の幸福を計る爲めでは決してないのである。

されは今日の資本主義社會では總ての土地や總ての天然自然の資源や工場や農場や其の他のあらゆる生産機關か、既に資本家の所有になつてゐて、個人の自由勝手なも●になつてゐる。そして勞働者は一般に、どれだけの品物を、何の爲めに、どこへ送る爲めにつくるのか、そんなことには毫も關係を持つことが出來ないのみではなく、やつと其の日暮らしをするに足るだけの或は其の程度の生活にさへ足らないだけの賃銀より取ることが出來ないのである。

四

マルクスは説いてゐる「紡績工場に於て、勞働者は單に綿糸といふ商品をつくりだすか？。否、彼はまた資本をつくりだす」と。この場合の資本とは、利潤の意味で、利潤とは、資本の子供の意味にほかならないが、やがてまた資本となるものだといふ理由から、マルクスは「否、彼はまた資本をつくりだす」と言つたのだ。事實勞働者は、品物言ひ換へれは商品をつくりだすのみではなく、同時に資本家、即ち彼等の主人の爲めに、利潤をつくりだしてゐるのである。もと〳〵資本其のものが、其のまゝで、利潤といふ子供を生んで増殖するなんていふ不可思議は、夜もまた晝に等しいこの文明の世の中にあり得ようはづがない。あり得ようはづがないのにも拘はらず、而もあるとすれは、これはまた甚だしき不可解であつて、そこに何か資本主義經濟の魔術的なゴマカシがなければならないといふことになつて行く。マルクスはこのゴマカシを科學の光明の下におき、其の正體をつかみ、これを資本の勞働搾取だと言つた。資本家は勞働者に支拂はないし、勞働者は自分が働いただけのものを、資本家から受取らないから、資本が利潤といふ子供を生んで増殖して行き、資本家はます〳〵榮え、勞働者はます〳〵貧乏になる。

それ故に其の逆を考へて見るなら、勞働者がみな働いただけのものを完全に受取るならは、資本は依然としてもと通りである。一萬圓が一萬五千圓になつたり二萬圓になつたりはしない。一萬圓の資本は、どこまで行つても一萬圓でどゞまつてゐる。

それ故資本は、一片の社會を支へ社會を生かしてゆくに必要な品物をもつくりださないだけではなく、其の品物をつくりだす社會の柱たる勞働者を、勞働階級を無智と貧窮の中に陥れておくものである。

それ故其れは一萬圓を一萬五千圓にも二萬圓にもし、十萬圓を十五萬圓にも二十萬圓にもせんとしまた事實なしつゝあるものなのである。そして今日の資本主義の社會が、其れの柱となり、其れを支へ生かしてゐるものが誰かといふことを、即ち一番大切にし尊重しなければならないものが誰かといふことを、ほんきに而も深く考へて見ようともしないのは、さうすることが結局自分にとつて非常に都合の惡いことになるし、自分の惡をあばく事になるからである。

ものは要領

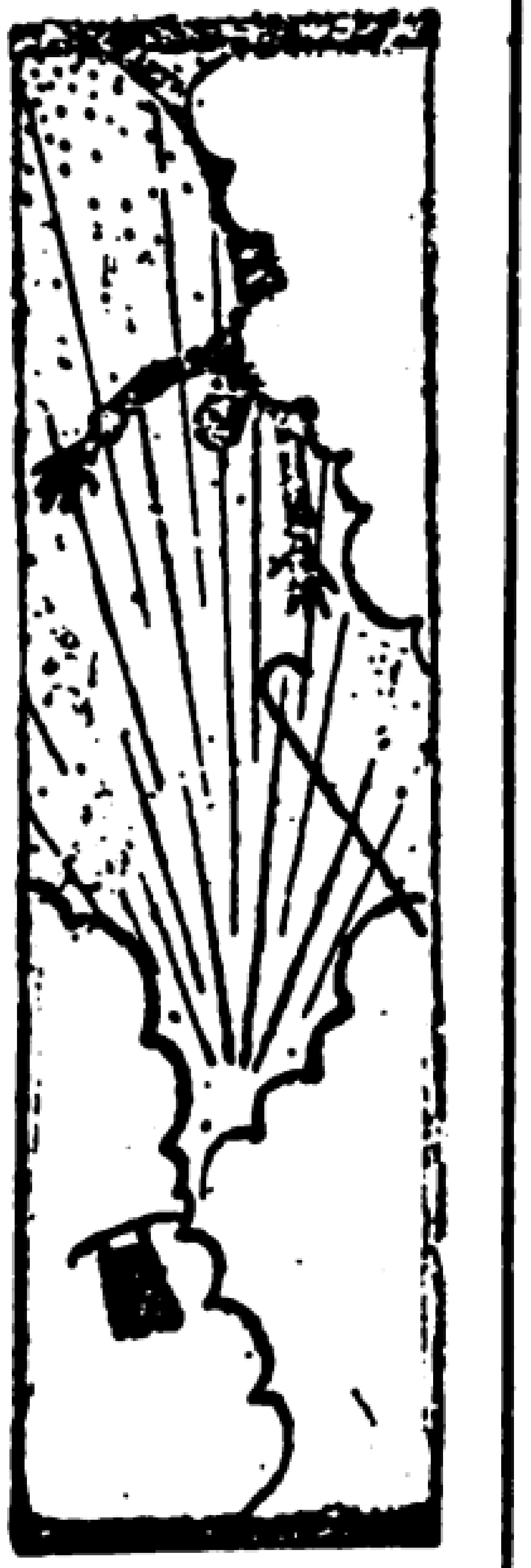
見聞生

◆今年のメーデーに警護の任？にあたつた警官隊に大體二つの型があつた。

◆一つは出世する型で、これは民衆と警官隊と衝突するといつの間にか姿をかくして騒ぎが納まると又ニコ〳〵顔を現はす奴である。

◆もう一つは、どつちみちゆうづうのきかぬ奴で、自分の貧乏顔は棚にあげて、民衆を見れは、敵愾をおぼえて叩きつける奴であるこれはとても出世の見込がない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



政界より觀たる今日の獨逸（一）

在獨バイエルン　稻垣守克

左右兩黨の激減

先づ數字の上から政黨の勢力を觀察して見やう。十二月の總選擧の結果七大政黨の得たる當選數は次の如くである。七大政黨を右黨より左黨に向つて順次に並べて見れば

民族黨　十四人
國粹黨　百三人
國民黨　五十一人
中央黨　六十九人
民主黨　三十二人
社會民主黨　百三十一人
共產黨　四十五人

となる。

此他に當選者を出した政黨が四つある。

バイエルンの國民黨　十九人
經濟黨　十七人
土地黨　八人
ウエルフ黨　四人
（一名ハンナーベーヤ黨）

此小黨は國民黨の前後の邊に置かれる性質の政黨である。民族黨はバイエルンの國民黨及び經濟黨以下に下つたが今日のドイツを論ずる上に於て重要なる地位を占むるものであるから七大政黨の中に數へて置いた。十二月の總選擧に於ては投票を行つた選擧人が多かつたから當選者の數も四百七十二名から四百九十三名に增加した。從つて各政黨の數も增加した。共產黨と民族黨とに於てのみ當選者數の減退を見た。即ち共產黨は六十二人より四十五人に民族黨（ファシスト黨）は三十二名より十四名に減少した、其他土地黨は十八名より八名にウエルフ黨は五名より四名に減じ、四人の代議士を有せしドイツ社會黨が全然當選者を出さなかつたが此等は殆んど問題とするに足らず（ドイツ社會黨は社會主義の右黨ではなく右黨の小黨で「社會」と云ふ名を用ひてゐるに過ぎぬ）。

國粹黨は九十五人より百三人に（八人）
國民黨は四十五人より五十一人に（六人）
中央黨は六十五人より六十九人に（四人）
民主黨は二十八人より三十二人に（四人）
社會民主黨は百人より百三十一人に（三十一人）
其他四小黨の中
バイエルン國民黨は十六人より十九人に（三人）
經濟黨は十人より十七人に（七人）

增加したが當選者の總數が二十一名增加したのであるから七大政黨中國粹黨、國民黨、中央黨、民主黨の四黨は現狀維持で社會民主黨のみ好成績を示したと觀るべきである。

十二月の總選擧の結果は一概にして云へば、左右兩極端が激減して中央が現狀維持、獨り社主黨のみ增加したのである。

選擧戰の表面から云へば共和派の勝利で反動派の敗北である。反動派は黑白赤の帝國旗の下に君主政體贊成と云ふ意味で選擧戰に臨んだ、之に對して共和派は黑赤黄のドイツ共和國々旗の下に共和政體維持を目標として參戰した。反動派は民族黨、國粹黨、國民黨と當選せる四小黨とであり、共和派は中央、民主、社會民主の三黨である。共產黨は之より獨立である。反動派三黨の合計は四名の減少である反し、共和派三黨の合計は三十九名の增加である。五月の選擧に於ては左方極端派たる共產黨が勢力を得たるのみならず一般に右黨に投票が傾いた。十二月には左方に傾いた形である。

國民は平和を望む

此傾向はドイツ國民が「安定」を希望してゐることを示すものである。昨年末以來マルクが安定し人心が安定した。その爲めに經濟界が不景氣になり失業者も多くなつたが、全體から云へば國民は喜んでゐる。世界大戰開始以來十年間食糧攻めに會つてゐたドイツ人が俄に白パンを見るやうになつたのであるから其喜びは察するに餘りある。インフラチオン（紙幣濫發マルク下落）時代と云ふと身振ひする位恐ろしがつてゐる今のドイツ人には何よりもインフラチオンが恐ろしい。ドーズ案は重い負擔だが、インフラチオンに比較すればまだましである。若しファシストの政黨たる民族黨が力を得共產黨が勢力を增大し、聯合國との協調が破れて、ルール占領となり借款不成立とならば再びインフラチオンの見舞を受けねばならぬといふのが何よりもの恐れであつた。平和主義、現外交を支持する意味に於て共和派が勝つたのである。

マルクス政府は國民黨、中央黨及民主黨の聯立內閣であつた。社會民主黨の好意的支持によつて辛ふじて過半數を占めてゐた。十二月の選擧戰に於ては國民黨は反動派の戰線に加つて中央、民主黨をも敵としたのである。國民黨は國粹黨と中央黨との中間に在り雙方に對して殆んど同じ程度の親密さを有してゐたが今回の選擧戰以來中央黨を敵とし國粹黨に全く接近してしまつた。

選擧の結果は、中央黨と民主黨と社會民主黨との合計は二百三十二人となつた。民族黨、國粹黨、國民黨三黨の合計は百六十八名であり之れに四小黨を加へた合計も二百十六名であるから、共和派の聯立內閣は反動派には勝つが、此處に共產派と云ふ反對黨が控へてゐるので反動派及共產黨の合計は二百六十一名となる、そこで共和軍は選擧にはどうにか勝つたが、三黨の力だけで政府を組み立てる程度まで成功しなかつた。

十二月選擧の大勢は國民の意思が共和派に傾いた事を來す。正當

の政治的見識から云ふならば共和三派に國民黨が加入して四大政黨の聯立即ち所謂大聯立内閣が組織さるべきである。然るに國民黨は表面上は、國粹黨に親密になつたのであるから、大聯立内閣には加入が出來ない行きがゝりである。然し今日のドイツの政界に於ては國民黨が再び左の方に妥協するとも絶對不可能ではないとされてゐる。

若し社會民主黨が特別の好成績を占めたのでなければ、マルクス内閣はそのまゝ國民、中央、民主の三黨の聯立で社會民主黨の好意中立、國粹黨の半々中立で、今しばらく露命を繋ぐことが出來るかも知れないが社會民主黨が三十名を増加した以上は同黨としては内閣に正式に加入することを希望するのは當然である。故にマルクス内閣の左方延長が問題となる。左方延長の成否の鍵は國民黨が握つてゐる。

右黨の方面から内閣が組織されるとするならば右黨三黨及四小黨の合計は二百十六名であつて議會に於て過半數に達しない。共和派及共産黨の合同反對に敗北する。そこで若し中央黨が右黨の聯立に加入すれば過半數となる。然るに中央黨は共和軍として選擧戰に參戰した。今のところでは右黨聯立に加はり得ない境遇である。然し此處にも不可能の可能が在る右黨聯立の鍵は中央黨が握つてゐる中央黨が右黨聯立に參加し、右黨内閣が成立すれば、獨佛の關係は面白くない。反動主義は外國からは好まれぬものである。ルール撤兵の問題其他聯合國のドイツに對する信用は減ずる。又社會民主黨は議會内に於て議會外に於て極力反抗する。故に右黨内閣は間もなく解散に至るであらうと想像される

又國民黨が妥協して大聯立（左方中心）内閣が出來たらどうか。此處にも障害がある。即ち國民黨が國粹黨に好感を持つことである一九二三年夏以來國民黨が國粹黨に接近し遂に之を内閣に入れやうとするに至り内閣の危機が生じたのである。民主黨は結局反對して危機が破裂し議會解散となつた。であるから國民黨は從來の同[illegible]の友を捨てゝ反動軍に投じ、決戰を試みたのである。根本的政策の問題は此總選擧にはなかつた。五月にはドーズ案賛否の問題があつたが十二月には政黨關係の問題のみである。そこで問題を捏造したがる政治家が黑白赤の反動派を持出して來た。民衆の注意を一點に集中する策略に過ぎない。帝政か共和かで問題は國民の中から少しも起つたのではない。政治家が民衆を瞞つる手段に過ぎなかつたのである。

黑白赤の帝政に反對して共和派が黑赤金の共和旗をかつて立つた、十二月の選擧は國粹黨を内閣に入るべきや否やに對する民衆の意見投票であつた。帝政にすべきや共和たるべきやは今のドイツの實際問題ではない。即ち偶像選擧が行はれた、選擧の結果はどうであつたか。「極めて小さい勝」で國粹黨入るべからずとされたのである。英國に於ては政黨政治が訓練されてゐるから内閣は民衆の氣もちが傾いた方の政黨によつて組織される。勞働黨が從來よりも比較的に多くの投票を得れば、其結果は過半數を得ないでも當然政府に立つことゝなる。實の問題でなく形式の問題であるとするならば今回はドイツに於ては左傾内閣が成立しなければならないのである。左傾聯立とは社會民主黨、民主黨、中央黨の三黨の聯立である若しこれが英國なら反動派は一時左傾聯立内閣を許すのであらう。然るにドイツでは[illegible]が[illegible]なる問題となつてゐる。共和三派はもう二十名増加したかつたのであるがそれが出來なかつた。即ちドイツ議會の形勢は選擧前と大した差のない程度に於て不安定の状態に陷かれることになつたのである（未完）

爭ひ

ミチハル

父母の爭ひの本も金にあり
金はヅク／＼憎きものか

父上は怒り給へり母は泣きぬ
なでに淋しき古里は秋

金故に爭ひ續く我が家に
冷たく迷ふ秋の風かな

母上は
「不孝な子だ」と俺を云ふ
それに「逆ひ」ないでらうか
俺

孝行も不孝もみんな
「金故」とあきらめてみる
俺の生活

金を得る
方法を知らぬ我れ故に
「馬鹿」と云はれて
甘んじてうく

金よ／＼／＼／＼
惡魔の如きものよ金よ
今頃汝のしたはしきかな

何事も父は語らず母も然りき
吾れも然かりきそして別れぬ

ある日

ヤヤ長がき
虚無の世界は續くらん
治安法下のプロの陣營

○き旗

振りて死せるルーチンが
フト謡りいづ僞の[illegible]に

市川の
堤で「ウナリシ」〇〇獄
その日、日曜、秋晴の日

早苗も唄ひ
われも唄ひき
大聲を上ぐれば強く
木魂して來ぬ

「オーイ」と呼べは
「オーイ」と答える
山彦の響にさへも
親しさわ湧く

赤々と秋の日は照り
スイ／＼と
赤トンボ飛びて
その日は暮れにき

初冬の光りを浴びて眩ゆくも
靜かに立てる牢屋の門かな

囚はれの友に逢はむと
吾れ行けば
ジロ／＼見上げる牢番の眼。

人を見れば人惡く、罪人に
見へるだらうよ牢番の眼

五十圓
もらへばこんなに忠實に
働け様か牢番の眼

お輕が賣られ
與一兵衛も定九郎も殺されぬ
勘平も腹切りて幕は下りき
この出來事も五十兩のため

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無產大衆に訴ふ

渡部信義

無產大衆諸君！

諸君は、あの佐倉宗吾を熱愛するであらう。またあの飢えたる民衆の爲めに惡代官を斬り捨てた勇俠國定忠次を熱愛するであらう。またあの天保の亂に依つて知らるゝ大鹽平八郎を熱愛するであらう。凡て諸君は正義を愛し、正義の爲めに身命を賭して戰つた人間を愛し、そして熱狂するであらう。諸君の胸の底には、何時も正義の血は流れてゐるのだ。然し乍ら諸君、諸君は佐倉宗吾や國定忠次や大鹽平八郎や、その他の正義の士の話を聞き、又はそれ等の事を芝居で觀て、そしてただ[illegible]

然らば諸君は、現代に於て何を見るか。吾々正義を愛し、正義を語り、正義を叫ぶのは、それは只吾々の生活の飾りとしてではない。正義を弄ぶのではない。正義が吾々の生活の爲めに必要だからだ。正義に依つて吾々の生活が支配されなければならないからだ。正義に依つて支配されなければ、吾々の生活はうまく行かないからだ。吾々が若し動物であり、奴隷であるならば、斯くまでに正義を叫び、それを必要としないであらう。然し吾々は動物ではない、奴隷ではない、人間だ、飽迄人間だ。吾々は吾々の生活を人間としての十分なる生活に迄置かなければならない。吾々人間の生活をして十分なる生活たらしめよ。充實したる光輝ある生活たらしめよ。人間の生活を充實したる光輝ある生活たらしめるのは、吾々人間の當然爲すべき事である、否、そんな事は論を要しない事だ。[illegible]

諸君、我々無產階級の生活の悲慘さの原因は何處にあるか。吾々は悲慘なる生活をなすのが當然定められたる事實なのか。奴等ブルの走狗たる生臭坊主の云ふ神がさう吾々を運命づけたのか。そんな馬鹿げた事があるものぢやない。人間は自分の生活を誰に依つてでもない、自分で定め作つてゐるのだ。浮世は儘ならないのではない、儘にするのも、しないのも人間それ自身の心一つにあるのだ。儘になる浮世とは、眞理と正義との行はれる幸福な世の中の事だ。これまで過去に於て、そして現在に、於て浮世が儘にならないのは儘にしない狡猾者があつたからであり、あるからだ。そしてその者に對して一般無產大衆が誤魔化され盲從して來たからであり、してゐるからだ。

眼を開け、無產大衆諸君、そしてしつかりと自分等が生きてゐるこの現代社會の生活を見詰めよ。社會主義とは何ものか、社會主義の正義を掴め、そして自分等の生活を妨げてゐる者に向つて、諸君の胸の底に常に流れてゐる正義の血汐を沸騰させ、眞赤な正義の炎を上げながら、猛然と奮ひ起て！

奴等は、支配階級は、吾々無產階級の××者等は、その諸君の正義の炎を抑壓し、諸君の反抗を鎭める爲めに、奴等一流の正義を叫ぶであらう。これ迄やり來たつたところの事だ。そして無知にも無產階級の正義を誤認して來たところのものだ。然り、奴等の叫ぶ正義も亦矢張り正義であるには違ひない。奴等にとつての正義である。然し奴等の正義を以て無產階級は自分の正義であると考へてはならない。吾々の正義は吾々の正義である。奴等にとつては不正義である。吾々の正義は唯一つしかない。社會主義の正義唯一つしかない。この事をしつかりと仕込まないで奴等の云ふ正義に誤魔化され、自分らの正義を叫び、そして戰ふ者を殺してはならない。殺してしまつた後で氣がついたところでもうおそい。そしてこの夥しい過誤を吾々無產階級は、過去に於て何遍か犯して來た、何と云ふ悲慘な事だ、情ない事だしかも現在に於ても、吾々はその過誤を犯しつつありはしないか自分達の生活の正義の爲めに闘ふ戰士を殺さない迄も甚だ冷淡なる態度をとつてはゐは

ケチな眞似をしやがるない

直平

> 一、此處より一步も外れる事を許す
> 一、若し外れたる場合には十年以下の懲役に處すべし
> 大正十四年五月十二日
> 治安維持法番局

何だつて？
笑はしやがな
また立札か
大きな溝を掘りやがつたな
兩側に溝なんか掘りまわして
禁々づくめの立札をならべるなんて
チエツ、ケチな眞似をしやがるない
手前達がなんぼケチなかがらくりをひねくつても
野原はやつぱり廣い野原なんだ
地球はやつぱり廻轉してゐるんだ
そら！風向きがかはつた
雨だ　雨だ
降つて奥れい
電光——雷雨だ
大暴風雨だ
降る altering

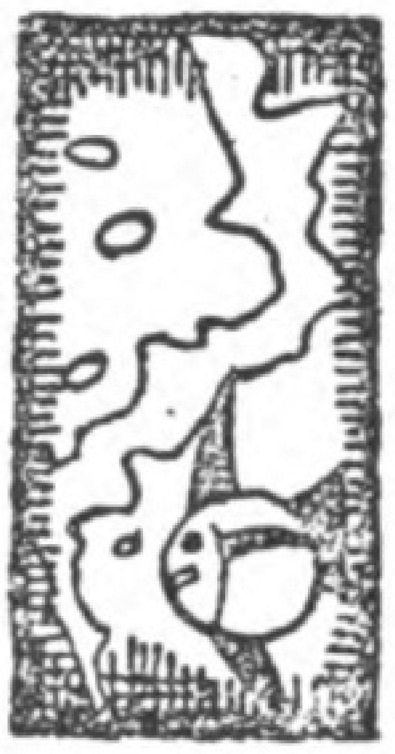
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しないか、そして結局見殺しにしてはゐはしないか吾々に一大衝動を與へたところのあの震災當時はどうだつたらうか。吾々無産階級の戰士を×殺し、或ひは見殺しにしたのは果して誰であつたらう？おゝ、堪らない事だ。それはかりではない、吾々日々の生活に於て吾々無産階級は、自分の眞の敵を忘れたる如くして、自分達仲間同志で戰ひ傷つけ合をしてはゐはしないか。これはみな奴等支配階級ブルヂョアの正義に誤魔化され、自分等の正義に冷淡であり、臆病であるからではないか。自分等の正義の戰士を殺し、後でそれに氣がついて、芝居や小説の上で祭り上げ、そして芝居や小説の上で感激し熱狂するだけでは何にならう芝居や小説の上で得た聖なる感情意志を以て自分らの敵に對して闘はなければ、無産階級は悲慘なる過誤を、これからも幾度も幾度も繰返す事であらう。

搾取階級被搾取階級の對立する社會、被搾取階級たる吾々無産階級が窮乏の底に藻きつゝある社會現社會の如何なるものが吾々にとつて利を與へるものであらうか。ちよつと例をとつてみても、日々巷に築かれて行く尨大なる建物、銀行會社、又は官衙、刑務所、それ等はいつたい吾々にとつて何であらう、吾々の何のために存在してゐるであらう？、何の利を與へてくれるものであらうか、その中では何がなされつゝあるか。また今議會に於けるブルヂョア政治家の行動は如何？誤魔化し物ではあるが無産階級の生活の爲めの政治を行ふ爲めの普選を與へながら、一方に於てそれにより無産階級の擡頭を抑へるべく治安維持のためと云ふ暴法をこしらへてゐる。奴等は奴等の生活のための正義に汲々たるものではないか。奴等のやることは一切出鱈目であり、誤魔化しである。

吾々は吾々の生活を求める！吾々の正義を叫び、正義のために闘はなければならぬ。吾々お互の顔を見ろ、疲れた顔を見ろ、痩せた蒼い顔を見ろ、これが、これが現社會に於ては決して元氣な生氣あふるゝ顔にはならないのだ、なると考へるのは、大間違ひだ。

だが、諸君、吾々は吾々の正義の闘ひによつて、やがて元氣ある生氣あふるゝ顔にはお互はなるであらう、さうならねばならぬ。吾々無産階級の正義の旗は、太陽の旗である。時にはたとへ暗雲に鎖さるゝことがあるとも、頭上高く輝くあの太陽の如く、眞赤に輝いてゐる。未來は吾々のものにしなければならぬ、吾々のものである無産大衆諸君！吾々は吾々の胸の中にある正義の綱を固く握り合ひ、吾々自身の解放の爲め、吾々の光輝ある生活の爲め、各自、無産階級の大旗、太陽の旗、その旗手たるべきではないか！（完）



頭隠して尻隠さず

與謝生

彼ら（日本共産黨）は尻隠さず露西亜が新經濟政策を執るのを一生懸命に辯護した。そして今日本の總同盟が方向轉換をやり始めるとボツ／＼彌次り始める

○

池袋あたりの青年共産主義者が聲明書を草稿に原稿を書くチツタア機械のアカでもなめてかゝつて來いツ。

○

評論家が總同盟の内紛を種に飯代を稼ぐ、總同盟の墮落協調會と社會局などゝ與太を飛ばす治安維持法案の出た世の中だ

○

資本主義最後の帝國主義と東天紅ゝやに流行る言葉だが、エエン待遠しイワ

○

幹部と幹部の啀み合ひ毆つて毆られる組合員こそいゝ面の皮之れも金が仇の世なればこそか。

○

關東地方評議會共産主義の假面に隠れる頭かくしてしりかくさず。

○

聲明書の濫發評議會の名何と關東同盟の拙文いや解つた共産主義は文章で拱す。

○

共産主義者と云はれて喜ぶな何故つておまへ達はお爺いぢやねへか

○

内幕と内幕の曝し合ひちつたあ觀くはごはへんか爪とられた鷹は弱いもの。

○

濱の眞砂は盡きるとも世に威張る種はつきず

宗五郎どんの遺言だ

お爺つさん、決して心配しなすん
たややこしいめかくしも耳あても
とつてしまつておきき
俺あいいことおしへてあげる
ほら／＼、そんなわけなんだ
わかつた？みえる？
お爺つさん、決して心配しなすん
な宗五郎どんの遺言だ
いつまでこの貧乏が續いてたまる
もんか！
なくてねえ、さよならお爺つさん
後で線香の一本もたてゝくんねえ

不景氣面

どいつもこいつも
營養不良と神經衰弱と變態性慾で
でき上つた不景氣面はかりだ
恐しいこつた、搾り粕の樣な青ざ
めた顔が毎日ゴロ／＼職工町につ
まれて行くと、恐しいこつた
今年の春風はどつかに氣拔けがし
てるやうだ
あつちこつちでうす氣味の惡いう
めき聲がする
これがなんかの前兆でなくてなる
ものか
あのどす黒い煙突の煙が唯ぢやな
いぜ
おてんとさまの面は腐んでるやう
だ
本當に末世だ
今にこの娑婆のかいろくが來るぜ
マボウの不景氣面を横からみると
みんな××に變つてゆく
今に一事起らうぜ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働總同盟
分裂問題

日本勞働總同盟の分裂するや、我社はその眞相を讀者に明らかにせんため、前號に於て、關東勞働同盟會派の言ひ分を紹介した。今月は更にその一方たる關東地方評議會派の言ひ分紹介のため喜んでそのページの一部を割いた。讀者は正しき批判の立場よりこの眞相を觀られんことを望む

所謂眞正科學的日本主義の

現實運動の眞髓を問ふ

關東地方評議會
關東鐵工組合　河田賢治

一

五月號本誌で關東同盟の錚々たる指導者諸君の名論を拜讀現實的とか着實な組合政策とかの謬說に頭の惡い僕等はいさゝか混亂せざるを得なかつた。

昨年秋の關東同盟會の幹部が六名の個人除名及更に五組合をも除名するに至り、本年大會直後に今日の紛爭を惹起したところの六名の個人除名に對して、先つ一言したい事である。それは勿論除名理由が異ることを抗辯するのではない。同盟幹部諸君の餘りに慌ただしい立場の變化に就てゞある。昨年秋の除名問題當時は、その理由等はくだ／＼しく數萬言を費して居るが、除名された個人及組合は小兒病的左翼共產主義者であり、それを支持する組合であるとの理由である。此場合幹部派諸君は、「俺達こそ眞正共產主義者だ」と稱して居た。本年三月大會直後の理由は「日本共產黨と關係し、或は共產主義者である」との理由である。昨秋小兒病的左翼共產主義者の名を藉りて排斥運動を起した眞正共產主義者の幹部諸君は、僅か半才にして昨年自分の立場であつた共產主義者を排斥して居る眞正共產主義と普通共產主義との相違がどれ程あるか聞かないが、兎に角眞正共產主義を奉ずる幹部派諸君は勞資協調主義の陣營の內に、資本家の土藏中にその安住所を見出して居る。「俺は總同盟の根本精神を把握して居る」と豪語する幹部派諸君の言動が、總同盟の根本精神で若しありとするならば、半才位に變りゆく根本精神こそ全く信頼するに足らない精神であつて、時雨催す秋の空の運動精神である。

若し日本共產黨云々を口にする勇者ならば潔く勞働組合の有給役員や幹部の職を辭し、太田警視總監と小山檢事總長等を輕蔑して其の岡ツ引と協力して組合運動の鬪士を片ツ端しから牢獄へ送つてブルジョアの夜の夢をしてまどろかならしめるべきである!。

今や幹部派諸君は自己の墮落と官僚化を隱蔽する爲に、組合運動の精銳分子に共產主義者の名を藉りて凡ゆる中傷と讒誣の矢を放ち組合を攪亂し、組合運動者を驅逐することに憂身をやつして居る。彼等のなすところは正に共產主義の名に依つて、無智なる勞働者を戰慄させ、ブルジョア的觀念或は思想より脫却せざる組合員を煽動して、內務省、警視廳、ブルジョア新聞、國粹會、赤化防止團等と共同戰線に起つて、無產階級解放運動の上に、暴法治安維持法と共に彈壓の刄を下して居るのと何等擇ることないのである。

現に彼等は、智識階級其他思想を理解する人々に向つては「俺は共產主義者だ、マルクス主義を奉じて居る。彼等は小兒病的左翼共產主義者だから排斥する」と說き未だ一般的に思想の理解できざる勞働者に面しては「奴等は共產主義者だから排斥せよ」「奴等の組合に居れば警視廳から壓迫せられ

戰へ社主催

山陰講演へ

松下芳男

◆圖らずも山陰の米子の講演會に行き初めて山陰の風光に接してきたが、此旅行は私にとつては深い印象と、そして又樣々の感慨を惹き起したものであつた

◆四月上旬、突然「戰へ社」の福田理三郎君の來訪をうけて「松江と米子とで講演をやるからきて貰ひたい」といふ交渉に接したとき恰も私は雜誌「政治研究」の編輯を擔當するやうな話が定つてゐたときであつたし又私如きものが行つたとて何も講演など出來るものでもないのだから、幾重にも辭したが福田君は中々きゝいれてくれない、そして其熱心に動かされて、遂に「あ參りませう」と思はずいつて了つた。

◆講演は二十一日と二日にやるから二十日の朝東京を出發せよといふ、處で其前日の十九日には政治研究會の大會があるのだ、而も其又前日の十八日には千葉縣の農民組合に行つてきた、それに其頃が「政治研究」の締切りといふので隨分多忙であつた。で、とに角十九日の朝東京驛に行つて、松江までの切符も急行券も買ひ、政治研究會の大會に臨んだ。

◆然るにどうしたのか、脚部がバカに痛い。腰かけてゐるのにたえかねた、幾度か席をさつて其邊を散歩したり、走つたりしたが、どうしても治らない、芝公園のベン

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

る」等と何等の理由もなく叫號して居る斯くの如く時と處とを選ずる度に彼等の精神は異なり、議會を否認して自己の立場を擁護することに努めて居る、これ洞ケ峠式以下の妥協的勞働運動でなくて何であらうか。彼等が持すると云ふ階級道德こそ一片の價値すらないではないか。

二

支配階級は常に政策として治安維持法を發布し、その反面に勞働者階級の懐柔政策をとらんとする。この難局に臨して總同盟幹部は、勞働者が血涙を揮つて築き上げた總同盟を戰鬪的勞働組合をブルジョア及政府に賣り付けんとして居る。

その例は無數に擧げることができるが、例へば本年大會の宣言草案に「理論の拘束を脱却して現實の必要を考慮」等を草して居る。これブルジョア「理論の拘束を脱却」するの必要を認めず、從つて無産階級解放の「理論を忘却し」たものである。それ故に治安維持法反對運動を起す際に、總同盟中央委員會席上にて公然と幹部派の理論的指導者赤松克麿君、或は中央委員松本重敏君等は右傾の實質を示す爲に治安法反對運動を起す必要なしと公言したる如きは、明かにその一例であつて、彼等自身の「現實の必要を考慮して」恐怖の餘り、ブルジョアの膝下にひざまづいたのである。更に東京鐵工組合提案の「組合內に共濟制度を實施すべし」と提案することは、勞資本家との鬪爭精神を忘れて、勞働階級のみの負擔で相互救濟をする方針であつた。これ今日の戰鬪的組合を勞資協調組合に對せしめ資本家に迷惑をかけざる運動である。やがて進んでは彼等は工場法の扶助支給さへも勞働者が負擔すべしといふに至るであらう。組合運動者を目して國賊呼はりする幹部あり、それを指導する彼等の運動あつてこそ、下は岡部三助より上は三井岩崎の營業をして枕高く初夏の夜を樂しませることが出來る！

斯の如く彼等の無産階級解放運動の精神は忘れてしまつた。戰鬪的勞働組合を分裂せしめて御用組合に變せしめることに、聊かの良心の持合せもない。誰か、此の行動を稱して昨年大會宣言の方向轉換と呼ぶことができようか。これまさに方向轉換にあらずして、廻れ右して資本家と握手することであり、資本家のお先棒を勤めることである。恥を恥として知らざる幹部を戴く組合員こそ哀れなるかなである。

三

彼等は常に口に現實運動を唱へる。現實運動とは彼等の專賣特許の如き口吻を以て叫ぶ。彼等のいふ現實を見よ！昨年秋に於ける中央委員會の勸告決議を無視する中央集權の破壞であり、規約の蹂躪であり、根本精神の猫の目式の移動であり、一夜に東京鐵工組合を創ることであり、一切の反動勢力との共同戰線であり大會で甲の提案は賛し乙の提案は否認することであり、資本家を顧慮して勞働者に尚一層の生活苦を負はさすことであり、勞働組合を資本家に獻ずることである。更に自己の墮落と野望を滿たす爲に他人を陷し入れることである。斯の如き所謂現實運動は現實の何たるかを知らざる現實である。現實と云ふ言辭を弄せば、またその觀念を持ては、何事をなしても差支ないと無異な解釋をする現實運動である。これ現實の名に依つて非現實の運動でなくて何であらう。所謂現實運動とか着實を組合政策とは、勞働階級を抹殺するといふ一語で盡きる斯の如き現實運動とその理論こそ即ち似非科學的日本主義は單なる架空論であり勞資協調は墮落した運動である、若し日本の特殊性どうの斯うとの詭辯や抽象論でなくて、前述以外に在るならば、頭の惡い僕達に大に參考となるから、その解說を示してもらいたいと思ふのだ。、そして、階級道德破壞者の言葉は、そしてまた空想的觀念的運動とかの言葉は、茲で謹んでノシを附けて返上する。敢ていふ。實際運動指導者、理論的根據の指導者諸君の明解なる似非科學的日本主義の眞髓を、除名とか追出しとか騷がないで、靜かに教示される機會を與へられんことを。

感情論を排す

關東地方評議會
靜岡縣東部勞働組合　福島義一

五月號本誌に掲載された總同盟分裂問題に關する先輩諸君の御意見を拜讀するに吾人の首肯し得ざる點の多いのは甚だ遺憾である。

第一其理論は大部分感情に支配された顛倒であり、捨ゼリフではないか。これがどうして同じ解放運動にたづさわる同志への言葉と受取れよう。

先づ中央委員である望月源治君

チに横臥して少しはいゝやうであつたが、又會議の席にもどると腰が痛む。併し辛棒して午後七時まで居つたが、どうしても駄目だ。それでやむなく同席の三輪壽壯君に話して家に歸つて臥たら大變だつた。身體は火のやうに熱くなり檢溫器を當てたら正に三十九度何分といふ高熱だ。自分ながら驚いたが、さて困るのは明日の出發だ。醫者を呼んだら「旅行など以ての外」といふ、そこで舍弟に命じて急に「進め社」に其旨を傳へた。

◆翌朝になる、熱は下らない。終日床にある、同行を約した猪俣石川の二君は、今頃は東海道のどの邊を走つてゐるかと考へたり、又肩幅の廣い福田君を想ひ出したりして、悶々としてゐた、二十一日のあさ、目が醒めたら氣分がいゝ。熱をとる、平溫だ、占めた。忽ち朝食し、鞄一つもつて東京驛に走る、八時四十五分の特急は、私を微雨の東海道を西に運ぶ。檢溫器は幾度か股下を往來した。夜京都着、驛前のすしやご箱ずしを食ふ、安ずし屋のセイか、餘りうまくなし。でも二人分平ぐ、山陰本線は夢の中。

◆目を開けば早くも米子、車窓は中海に面し、汽車は海に沿うて松江に向ふ。午後六時半松江着。車を出たら陰鬱の底で、福田君と山陰民衆新聞の吉野哲夫君とが迎へにきてゐてくれた。洋服で迎へて肩幅の廣いと思つた福田君は、今はスラリとした和服姿、私を迎へて如何にも嬉しさうに「よくきてくれましたね」といはれたときには、私は何だか胸一杯になつた。今日は演說は既に昨夜松江で終り、今日は只米子であるのみである。一日ばかりの演說にきたかと思へばむしろ恐縮する。叱られることを豫期して、喜んだ迎へられ、私は福田君以上に嬉しかつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の云はれてゐることについて見ても「彼等は」と頭から吾々五千人をけなし附けることが、苟くも我日本勞働總同盟の中央委員の地位にある者の無産階級解放のために日夜苦鬪を續けて居る同志への言葉だらうか？たとひ關東地方評議會の中に同君と心よからぬ者が何人か居るにせよ、それと之とは問題は別ではないか。

望月君は「本當に我國資本主義の現實にぶつゝかつて惡戰苦鬪して居る僕等」と云ふが自分達が有能であり、奮鬪して居るからと云つて、君の所謂空論を吐いて得意がつて居る同志が、よしあつたにせよ、それを除名排斥し罵倒誹謗を浴せ掛けなければならぬ理由が何處にあるのか。

望月君は、彼等は組合は作らずに出來上つた組合にノコノコ出掛けて行つて空氣焔を上げると云はれるか、そんな事で除名だなど官僚的な紛爭を惹き起すのが新しい階級道德に順應した事だと思つて居られるのか。

そんな尻の穴の小さな事でどうして全無産階級を對象とする大衆運動が出來ようそんな見識にも等しいつまらぬ理由で自分達幹部に少しでも反對の意見政策を持つ人達を幹部の權威を笠に着そ、除名しやうなどゝは、之こそホントに君達が排擊して居る黨中黨を作る排他的行動で、階級道德を破壞する獅子身中の蟲と云ふべきではないか。「共産黨の魔手」など聞いて呆れる。抑々勞働運動を何と心得て居るか？それ共君達はスパイなのか？吾々はわが總同盟の基礎がしかく薄弱なるものと信ずるものではない。之等に吾々總同盟會員を侮辱したスパイ的言辭であると云はれても返す言葉はあるまい。

吾々地方にある者の要求を忌憚なく言へば三千や五千の組合を作つたからと云つて、大きなつらをして幹部を氣取り、その椅子にかぢり付く事を考へる暇には、未だ地方には何十萬の勞働者軍が君達有能鬪士の來援を待ち望んで居るといふことを考へて貰ひたいのだ。

關東同盟の之まで取り來つた地方無援の吾々に對する態度の手前からも少しは反省されてもよからう。(完)

岡山の同志へ

再考を促す

松田敏一

曾つて僕が岡山に在つた當時、岡山縣勞働組合員の一人として名前を連ねてゐた。板野君や藤田君の指導を受けて自ら社會主義者を以つて任ずるやうになつたのも其のお蔭である。

僕は今度起つた總同盟の分裂に對して刷新派に共鳴した一人であつた。併し僕はたまたま堺一派の總同盟を乘取らんとした陰謀によりて事の起つたを知ると共に共鳴は變つて發憤となつた。彼等が自己の野心を敢行するために、我が國勞働組合運動を混亂せしめつゝあることを惜まざるを得ないものである。

岡山縣勞働組合員諸君。諸君の盡くが刷新派に走つた、其の間の消息は知らないが、組合の幹部の大半を共産主義者に持てる組合として刷新派に走つたのは一應無理もないと言はなければならぬ。然れ共徒らに刷新と言ひ共産主義と言ふ美名によつて此の問題を見たら大間違ひだ、君等は單に堺一派の率ゆる所謂日本共産黨閥に走つたものであらふ。併し彼等の過去に於ける行動の一半でも知る人あれば、彼等の麾下に走る事は出來ないであらうと信ずる。

未來に於ける彼等の行動は知らず、日本に於ける社會主義者の巨頭を以つて自ら任ずる彼等の過去の罪惡は「對閥」「民衆運動」「未來と青年」に依つて社會にあばかれて居る筈だ。娛始、收賄、無定見日和見によりて終始してゐる、彼を評すれば金を貯へんがための社會主義であり、民衆を欺むき何等か爲めにせんとする社會主義てある。彼等は自己の野心を充たさんがためにあらゆる惡辣なる手段を弄してゐるのである、そして彼等の閥外の人には社會主義者にあらずと言ふが如く振舞ひ、あだかも平淸盛の「平氏に非らざれは人にあらず」と叫んだのと同じ横暴振を發揮してゐるのではないか。

斯うした惡辣極まる一派が「共産主義」と「民衆の爲め」との名に於て、總同盟内に喰ひ入り其の勢力を扶植せしめ總同盟を乘取らんとしたのを未然に防いだのが此度の關東地方評議會除名問題である余又共産主義に於ては決して人後に落ちる者ではない。然し惡辣極まる彼等の陰謀に共鳴する共産主義者ではない。此度の事件を總同盟の共産主義系の排斥によりて起つた問題と信じたら恐らく誤てあらう。共産黨と稱する一個の私閥及びこれに組して勞働運動を惑亂せしむる者を排擊したにすぎない者である。日本の共産主義運動とは別問題である。

日本の社會運動の進展を見ざるは此の私閥の横行甚だしき結果と言はなければならぬ、社會革命を閥的鬪爭と履き違へてゐる彼等に青年の力を知らしめる必要があるそれは我々青年の任務でもある。日本の社會主義運動を進めるには彼等閥族を葬り然して後新陣容の下に進むべきである、と信じてゐる僕は、僕に最も緣故深き我が岡山縣勞働組合の諸君に苦言を呈し以つて賢明なる諸君の再考を促す

◆松江はいゝ、アサの景色、春の景色は殊にいゝ。宍道湖と中海とを通ずる運河に跨りつゝ宍道湖に臨んでゐる町だ。水の都會、私は寫眞でみるゼネバを思ひ出す。福田君に伴はれて宿屋に行けば、猪俣、石川の二君昨夜の疲勞で尚ほ床にあり。

◆午後私共三人は福田君に案内されて、市内を見物し、やがて舊城の天主閣に昇る。此所の景色のいゝ事は言語に絕するとでもいはうか。眼下に宍道湖は池のやうに廣がり、松江市は箱庭の如く後ろには大小の山々が屏風のやうに立ち並んでゐる。其模樣は私如き不風流漢の記述し得るところにあらず

◆昨夜の松江の講演會には、辯士は猪俣君を除く外、全部中止、而も二三分乃至五分間の[illegible]であつたといふ壓迫振りであつたさうな。併しそれは島根縣の事、今夜は鳥取縣だからそんなことはあるまいといふのが、諸君の話し合ひであつた。といふのは鳥取縣は日本農民組合山陰聯合會の中心地、官憲も此無産階級運動の刺戟に依つて餘裕理解あるといふ事であつたからである。

◆午後七時半米子町の驛近くの劇場で、同地の同志山本君の開會の辭で開會した、聽衆は場に滿ちてゐる、氣持のいゝ、講演會だ、第一に福田君が演壇に立つ、身體の大きいにも似ず、今日の主催者といふので、頗る穩かな調子で講演を初めて、ものゝ五分間もやつたかと思ふとき、突如「中止」

◆はて何を言つたからだらうと私かに考へ見たが、どうも中止になりそうな所もない。併し中止するのは向ふ樣で、此所は理由が分らうと分るまいと、それはどうでもいゝ、ことになるのだ。其次ぎに立つたのは本誌の主筆石川準十郎君。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本社會主義運動の展開期

虎之門小助

一

日本の現在の社會運動は小黨分立で何等力を持たない。これではいくら資本家に冷笑され見縊られても如何ともいたし方はあるまい。口には大衆の團結と組織を叫びながらも浅ましい同志打ちに其日を暮らしてゐる現狀である。かうした味方の陣營の攪亂によつて、日に日に無産者の歴史的使命や目的は遠い彼岸に退いて行く様な氣がする。實になさけない事である。

この有様では、とても貧しい者が富める者の整然とした陣營に對抗して闘つて行く事は出來ない。かてゝ加ふるに飢餓の魔手は味方の全戰線に亘つて迫つて來てゐる。

そこで我々は今再び味方の攪亂せる陣營を見渡し、この浅ましい現狀のよつて來る所の原因と將來に對する大衆の運動方向の指針とを見きわめなければならなくなつた

二

社會運動は之を全體として見る時は河の流れの様なもので、絶えず進歩はしてゐるが決して退歩はしてゐないものである。で日本の今の小黨分立の味方喧嘩も一面から見れば過去の浮つ丁子な盲滅法な運動に批較すればたしかに一段の進歩をしてゐるとも見られる。がそれは運動としてよいものであつたとか、悪いものであつたとか云ふ事とは別問題である。之れは兎も角として今の日本の社會運動は實際あらゆる方面に於てすつかりと行き詰つてゐる。これを云ひ換れば運動の新生面を迎ふる打開期に向つて進んでゐるとも云ひ得られる。そこでこの行き詰りを打開するには、先づ第一に今の行き詰りの原因を調べて見なければならない。それにはいろ〳〵のこみ入つた原因もあらうとは思ふが大體に於て次の様なものがあらう。

（一）日本の社會運動は、主に大戰後に於ける數年の極く短い間に發達して來たもので、經驗に淺く外國のそれに比べて遙に歴史も短い事。從つて運動方法もいたつて誤謬的で、サンヂカリズムの思想が紹介さるれば何等考ふる所もなく直にサンヂカリズムに走り、ボルシエヴイキ入れば又然り、更に英國で勞働黨が天下を取れば、英國流又よからん、と云ふた様な具合に何等日本の社會の事情に就て考ふる事なしに、直譯的に觀念を玩具にした様な運動をしたことゝ

（二）以上の様な譯で運動の基礎をなす已つた思想もなく、從つて運動の形態も漠然として、敵の陣營をはつきりと見分けることはおろか味方の陣營を整理するすら出來なかつたことにもよる。

（三）更に日本人として困つた事は一つある。それは島國根性である。これは運動のいろんな方面に禍を成してゐる。即ち小さな我利一天張りと他人より偉いんだと自任したい又人にも見せたい所の妙な優越感が常にこびりついてゐて、ほんとうに心から無産大衆と云ふことを忘れてゐることである。ために勞働者はあまり直接の利益にばかり捕えられて、ブローカーに利用されるかたむきがあつた。

これは無産階級の鈍化が行き亘つてゐない事にも起因するが、それにしても運動の表面或は中心に立つ人物があまりに自分主義で無産者をダシに自分の勢力を張つたり賣名しようとはかりしてゐた事にもよる。この傾きは思想運動家にあつては、せめて原稿でも書いて賣名しようとしたり、組合運動者にあつては幹部にでもなつて、その會を乘り取らうとしたりする等不埒な考へを起した事になる。

（四）かうした、我利々々一天張りの賣名本位の運動家やブローカーがうよ〳〵してゐる日本の事であるから、いくら彼等が口に大衆を名に叫んだ所が、結局自己の勢力を植つけようとする官僚的氣分に内心が一ぱいになつてゐるから駄目であつた。で昔の博徒の繩張り爭ひの様な事に日を暮らしてゐる一かどの鬪士だちの横行してゐる現在日本のことだから、むしろ彼等の本性は敵資本家に向つて鬪ふよりは同志打ちの方がより多く感激をおぼえると云ふ様な譯である。

以上の様に例を揚げて來るならはまだ〳〵幾らもあることゝ思はれし、更に又夫れには種々なる經濟的な事情も直接、間接に影響して

◆石川君は學者らしい口調で、先づマルサスの人口論から説き出した。マルサスの人口論といふのは云ふまでもなく、今日經濟原論の一冊、社會問題の本の一冊も讀んだ人の誰もが知つてゐることで其議論は危險も非危險もない今では常識になつてることにすぎぬ。石川君はそれからどういふやうに論旨を進めて行くのか知らんが兎に角、マルサスに依ると人口増加の割合が幾何級數的であるに反し食料品増加の割合が、算術級數的でしかし増加し得ないと云ふのであると云つた。

◆すると「中止！」臨監は突如として叫んだ。何の爲か、これも亦さつぱり分らない。石川君も呆然とすれば、聽衆も唖然とする。與奮してゐるのは警官だけ、妙な場面であつた。次ぎに私が立つ。

◆私の講演は多くの場合、事實の叙述を以てするを例としてゐる。理論を多くいはないで事實を擧げるのだ。此日も同じやうにそれをやらうとしたで「私は諸君にありのまゝを申し上げやうと思ひます……」と先づそれを冒頭にする

◆「諸君？今日の日本は經濟的に餘りに行き詰つてゐるのを、諸君と共に悲しまずにはをられません……」そして人口問題から工業の資源問題、輸出品の問題、又支那工業の發達の概要を述べ進んだ。要素より中止される理由は毫末もない。あることをあるといふのだから仕方がない。私は三十分も語り續けたか、大分聽衆と氣持がピツタリと合つて來た。段々と油がのつてくる。下手な講演でも調子よくなつて來る。

◆『賃銀の高い爲に物價が下らないのでありますが、その高賃銀は又食料品が高いからであり、その食料品の高いのは、關税に依つて内地地主を保護するからでありま

ゐると思はれるが、茲ではそれを述べることが目的ではないから省くことにする。兎に角、今日本の社會運動は徹底的に行き詰つてゐる事が事實であつてその一面を流れてゐる思想の傾向は、社會運動にとつて最大の敵である所の官僚主義であると云ひ得られる。そして此を打開するには先づ第一に官僚主義から亡ぼして行かなければならない。が然し官僚に闘ふに官僚をもつてしては決していけない。官僚主義は闘はずとも民主主義思想の出現によつて自然亡ぶべきものであり、眞の民主主義の擡頭は無産者の團結となり初めて社會運動の根本の動力が生れて來るものであるから。

（三）

そこで我々無産者は、再び茲でごく解りきつたことではあるが、社會運動とはどんなものであるかその根本精神は何であるかと云ふ事に就て考へ直さなければならなくなつた。

我々の云ふ社會運動とは簡單に云へば有産階級の社會を代へて無産階級の社會としようとする運動のことである。それを實現するためには現在搾取され、貧困に窮しつゝある無産階級が一致團結して正々堂々と資本家階級と闘はなければならないのである——。

もつとはつきりと云ひたいが茲ではこれより云ひ得ない。然し以上は無産階級の社會を實現するための手段であつて、その根本の目的は「人は人によつて掠奪されることのない社會、總ての人が平等の權利と義務との爲めに社會の生産に參加し、並にその分配に與ると云ふ社會、即ち、經濟上の平等と自由を基礎として生れた社會のこと」である。

そして、かうした世の中が、マルクスが云つた樣に、必然に資本主義社會が亡び、社會主義社會が生れることによつて出來上るものである。

再び言ふが今、日本の社會運動はいろんな事情からして行き詰つてはゐるが、これもつまりは新生面を打ち開く前の一時的現象であつて、この難關を通り越す事によつて初めて、無産大衆による健實な新運動が勃興すべきである。又一方小黨分立も、無産階級の貧困の增大に伴つてどうしても一致團結しなければならない樣な機運に到達して來るものである。ために之れより後に來る無産大衆は決して既成の勢力に賴ることなく、大局の赴く所を洞察して、無産者自身による、無産階級解放の運動に投ずべきである。かくて、歷史必然の齒車は、最も健全に、貧乏の無い社會に向つて進んで行くのである。（完）

ブローカーを運動から葬れ

五年振りで東京に出て見たら矢り東京は嚮城の都だ、野心家と學者とゴロ計り居る、總同盟は喧嘩計りして居る、政治研究會も勢力爭ひをして碌々會費も拂はない共產黨員がコワしかけて居る、先達閒の酋長とかいふ奴の『空そうから科學へ』と云ふ本を買つたら五六年前大とう閣から出た空想的科學的社會主義の改名であつた、讀者をゴマ化す詐僞師だ、コンナ下劣な奴が東京に多く居ると思ふと東京に來る事がいやになつて了ふ、墮落しない在京の同志は田園に歸れ、鄕土に歸れ、大自然に接して眞理を說く境地は都會のブローカーにわからぬ、ブローカーはロシヤから金を取りて日本の大衆運動を壞せ、日本の大衆運動總同盟政治研究、自治會の內訌は悉くロシヤブローカーの仕業だ、ブローカーを倒せ、此奴を倒さなくては日本の大衆運動は進まない、吾々は田舍に居てから考へて居る、

特派員、千萬人

初　雷

何にも書きたくない日が續く。考へごとを、すればする程面くなつて行く俺の頭。細かのことにもいらだつ今の頃の俺の心。

「ドウにでも成れ」と手足を投げ出して「寢」てゐると、晴れた空が急に眞黑になつて、雷が鳴つて雨が降つて來る。その中をドブ鼠の樣になつた散歩歸りの虛榮心のカタマリが通る。その後を續いて巡査が社に飛びこんで來る。これをどうぞ、と云ふから受取つて見れば「〇〇〇〇爆發物」に關する事件の記事差とめだ。彼等の忠實さは自分は濡れても御上の御用だけは濡さずに丁寧に渡して行く。外では未だ雷が景氣よくなつて膽玉の小さい奴を盛んに脅くしてゐる此れが今年の初雷だウント鳴れ〱

天地のくだくる如く高々と——

——雷は鳴る心地よくなる。

鳴れ〱雷の音を聞いてゐると倘更何にも書きたくなくなる（渡邊）

す」とやつたとき「中止！」

◆私の意見をいふのを待つてゐましたとばかりに中止と來たのだ理由はない、それは豫定の行動にすぎない。島根縣だつて、鳥取縣だつて、要するに言論壓迫の一事は同じことなのだ。何の爲に壓迫た何所に中止するだけの危險さがあるのだ。石川君にせよ、私にせよ言つたことは實に平凡極る常識論だ。こんなことまで中止せねばならぬとは抑も言論の自由など、何所の隅にあるのだ、そんなに事實の敍述や、又マルサス論が恐ろしいのか。恐ろしいのはヤマしいからだ。私は常になく憤怒の氣に充ち滿ちた。米子警察の幹部連大枝國丸私の腦裡に烙印の如く印された。

◆はる〱山陰まで來たのは、タツタ三十分の演說の爲だつたかと思ふと、思はず苦笑する。けれども演說の效果は寧ろ數時間よりも數分にあるかも知れぬ即ち斯樣な演說まで中止させるといふ官憲の態度が、さぞや當夜の聽衆に大きな疑問として投げられたに相違ない

◆猪俣君は『社會主義の世になつたら』と題して、これは中止さるゝこともなく、一時間半の講演を無事終了し、聽衆には總てを帳消しにして滿足を與へたやうであつた。私共も多大の敎訓を得たかくして豫定の講演會を終へた。

◆翌日境でやるといふ話も出たがそれはもう官僚の時間もないといふので止めた又他日の機會を待つことにした。そして同夜は同志の諸君と共に、米子から一里ばかりの皆生溫泉に行つて一泊することになつた。

◆皆生の湯はよかつた、只夜遲く行き、アサ早く立つたので、其邊の風光に充分浴し得ざりしを惜しむ、併し何よりも喜はしかつたのは、同志諸君の御厚意であつた。私のやうな無名の文筆業者に對し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

□何事を劃策してか、ブルヂョア政界の雲行は渦を卷いて動揺しつゝある。そして先に治安維持法案と普選とを出してお茶を濁した彼等は、今社會政策と失業對策の店看板をもつて民衆の眼を瞞着し、其の内面に於いて恐るべき彼等獨特の企てを圖つてゐるのだ。注意しろ！鐵鎖は俺達の身邊を繞し陷し穴は前に待つてゐるぞ。線を恐れるな、彼等の奇策に迷ふな。

□敵陣營の本質に對するに此方の亂脈、總同盟の分裂に於て、日本勞働運動の醜事を曝し、思想運動は沈滞して意氣は見えない。全く動きのとれない現下の狀態に誰しもが憤慨するだらう。

□ロシヤ革命の失敗、ムソリニの出現、英國勞働內閣の失敗に續く慘敗、ドイツの軍閥大統領出現！地球の全面を見渡すだけでも癪に障ることばかりだ。

□全くこんな狀態では、いつになつたら眞に無産階級の解放が見れるんだ。一切の既成運動の形態を破れ！地球の全面より抹殺せよ！而して根本からの新運動を起せ是が現下の最も必要なる急務であり、我々の唯一の使命が此處にあるのだ。

□行きつまつた社會を改革するものは新興プロレタリヤであるならば、行きつまつた社會運動界を切り拔けるものは、新興青年だ。すべてをやり直せ！五分のひまをも済るな。過渡期を脱れた新運動は今や生れんとしてゐる。青年よ自らに期待せよ。（直平）

最近の出來事

×

關西、山陰道一帶に大地震が起り、但馬國豐岡町と有名な城崎溫泉は灰燼に歸したと云ふ。愈々世界一の地震國を以て誇りとし、鼻を高く出來るとは何と総はしい話ではないか。

×

福田大將が又々狙撃された所が幸ひにもよく怪我もせず、無事に事濟んだが、相變らず負け惜しみだけは立派なものだ。そのくせ軍人などは孫子の代までも眞平だと思つてゐるだらう。

×

「文藝戰線」復興。いつもの元氣のいゝヨタ振りが何よりのトリエだ。發展を祈つておきます。

×

和田久等の公判をきく。皆なすこぶる元氣な陳述振り

×

なべてよの中は憂き事と癪なことばかりだ。癪だ！癪だとばかり云つて見た所でしようがあるまいが。

×

ともあれ、癪も使ひ用では役にも立つ。線香花火の樣な癪はよして呉れ。鐵の樣な冷たい、固く溶けない癪でよの中を通せ。

×

癪の話のついでだが、同じ癪でも、アルツバツセフの「勞働者セリヰオフ」のもつた樣な疳癪もいゝ。

×

だが、お互ひ仕事の出來ないための疳癪や、思ふ事自分勝手にならない爲の疳癪はよさう。

辻　山　義　雄

生命三つ欲し

◆生命が三つ欲しい。アクビのでる世界に見限りをつけて自殺してしまつてもよい樣な生命と、人なみの歡びに生醉夢死して行く生命と、あと一つはまつしくらに精進して行きたい生命だ。

◆が然し、臆病な俺には自殺もできないし、この貧乏さでは人なみの生活もできさうもない。

◆殘されたものは唯一つの精進への道だ。だが俺の精進は君や女がきらひな生ぐさ坊主のそれとは違ふ。

◆一切の社會惡を葬つて進んで行く只一すぢの道なのだ……。

◆虛偽と虛飾の路、而も坦々たる銀座街頭の宵に、紫色の人波が流れる。

◆どれもこれも人なみのほこり顔をしやがつて悄喪しきつた肉體の中に、只一部眼のみが何かもの欲しさうな電氣を起してゐやがる。

◆どれもこれもタドン玉一つほうれや屁をぬかす樣な奴等ばかりだ

◆と氣焔をあげて見た所でしようのないこつた。まあ、默々として進まう！（虎之門小助）

爆彈飯物語

淀川の水もぬるんで涼しい初夏の風が吹いて來ては長髮をゆらゆらと撫でゝ嬉れしがらせてくれる大阪進め社から。見渡すかぎり亞鉛屋根とペンキ塗りのバラックの都、東京の眞中の進め社本部へ來ました。

本部の人達は初めて上京した此の田舍者を「爆彈飯」の御馳走をしてもてなしてくれました。「爆彈飯」とは一寸變つた御馳走ですが、これは僕らの仲間で可愛い同志に食べさせる眞赤な血のやうな色をしたそれはそれは美味い御飯です……………先月『暴風』と言ふ小さい詩歌集をだした時も此の爆彈で發禁になり一部殘らず押へられました。『爆彈飯』も『暴風』に書いた歌の中からとつてつけられた名前です。

東京に來てから毎日〳〵諸所方々を歩きまわつたので此頃ではもう行き場がなくて朝の間から數回進め社の屋根の上に登つて『……』と大聲で歌ふことをたのしみにしてゐます（樋口）

て、眞に心からなる歡待を受けた私は何を以てこれに酬ゆべきかを思うた。酬ゆべき何ものもないのだ。

◆二十三日朝米子出發、私共三人は妙な講演會を後にして、過去として山陰本線を東に走る、三人は色々語り合ふ。今迄打ち解けて話つた事もない兩君と、本當に愉快に語ることが出來た。そして兩君に付いて色々のことを知つた。

◆猪俣君は新潟縣の長岡の人、私の家は長岡出身で、私は新潟生れだ。そして私の從兄で今海軍の軍醫をしてをる男は、猪俣君の二年下の級であつたなども知る。米岡の話も出る、學問の話も出る。石川君とは前に「進め社」の招待會で初對面、今度は二度目、非常に親しみのある人だ。

◆綾部は小雨が降つて居た、石川君はその大本教の黃金閣を、戀人のやうに待つてゐて、漸く車窓から見出して喜んでゐた。思つたより小さいものだ。汽車は南に走る。やがて京都着

◆石川君は大阪へ、猪俣君は京都へ、そして私は東京へ、三都に袂を分つ。東京行きは夜行だ。過去の訓練で、何所でゝも平氣で眠られるのが私の特長、大津を知つてから横濱まで、殆んど何所も知らざりしとは自分ながら呆れる。併し鞄を枕にしてゐたので、何も盗まれなかつた（完）

×

紫の
ゆらゆらとゆれて立ちのぼる
半ば吸ひたるたばこのけむり

（見　德）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報

狂燥的であつた從來の日本社會主義運動は、分裂に次ぐに分裂をもつてし、遂に當然起るべき歸結に到達した。そして今總ての人が、この行き詰りの現狀にあつて、過去の戰跡を回顧し、更に又進むべき方行を凝視してゐる。今や將に之の展開期である。この重大なる時機にあつて、我が日本無産階級は何れに向つて進むべきかによつて自らの運命を左右するものである。戰術は日本の社會的事實と敵資本家の出樣一つとによつて決定される。既に分裂したものは再びつぎ合せようとしても之は空しき徒勞である。要は、地方を背景としたる新勢力の勃興である。中央はもとより地方の主義者も、一人よがりの感情論を排し、眞に自重し無産階級の大義に基いてその言論行動をなすべきである。無産階級運動は今や打開期にある。眞に自重すべきのときである。

岡山縣

無産階級と無産政黨（一）

俺は小作人である。教育も従つて智識プロである、故に文章なんか綴つた事はない。けれども今や無産政黨が我々の手に依つて生れんとして居る此の時に當り無組織ながら愚見を少し書いて見たいと思ふ。現時我が國にも無産階級解放運動が起り、それ〴〵自分自身の産業別に依つて種々の組合を組織して資本主義の鐵鎖より解放さるべく戰線の途上に立つて居るのである然し今日まではもつぱら經濟行動の一方面のみに依つて組合運動を續けて來て居るのである。此の組合運動も今や年と共に進展し發達して來た、そして愈々運動は深刻化して今日に到つては社會の上部高層である政治行動にも頭を突き入れて今後は經濟行動と共に政治行動をも起す樣に立ち至つたのである、故に今日まで政治的方面に無理解であつた無産階級に政治的訓練及教育に怠りなく、同時に無産政黨樹立の準備も出來つゝあり政治研究會なども生れて政治的に一生懸命に訓練し、教育し、組織立てられつゝある、我々無産階級は此の生れんとする無産政黨に付き深重に考へねばならぬと思ふ、我々の手に依つて我々の爲に生れんとする政黨をケ・タ・イも知れぬ者に專占せられてはならぬ、自分は此處に其の事實を目の前に見た事を諸君の前に比較して見たいと思ふ。

先日岡山に於て政治研究會本部の大山。佐野兩氏の演説會があつた其の時大山氏の演説中向つて左手の所に「大山佐野兩氏來岡に付き歡迎の爲ブラジルで懇親會を開きます希望の方は御自由出を願ます」と書き出された、自分も演説會終つて此の歡迎會に參加したのである、來會者約三十名程、其の來會者の顏ぶれを見る時に俺は驚かざるを得なかつた。約半數以上六七分方は勞働者とは見受けられぬ連中であつた、少くとも少ブル階級の新しがりやであらうと思つた、そして此の連中の手に依つて政治研究會の支部創立の協議がまとまつて、支部を創立する事になつたのである、此の政治研究會なる者は無産階級政治研究會であり生れんとする無産政黨とは深き關係を結び付けられる者であると思ふ、

其の研究會が前に言つた樣なケ・タ・イも知れぬ者の連中に依つて支部を組織されたり運動されたりして組合運動を階級意識にはつきりして進めて居る眞のプロの俺達はたまらない、彼れ等は無産階級解放運動に理解した如く言つたり、又なさねばならぬ事であるなどと言ふけれども彼等は決して我が運動を理解したのでもなければキヨウメイして居るのでもない彼等は自分の立場に自覺したのだ。ぼんやりして居ては自分の地位名望があやふくなる生れんとする無産政黨を、ふみだいに一仕事を仕樣と出掛けて來て居るのである、彼等は決して我々の味方でない事に目覺めなくてはならぬ、そして無産政黨は何處までも無産階級の手に依つて生れる無産政黨にせなくてはならぬと思ふ萬一此の神聖なる

紡績工場雜錄

威千代

◆

（一）現在のこの世の中は資本を本位として組み立てられてゐること。

（二）そのために、資本家は遊んで嬉しいことのあるつたけをしてゐ乍ら、機械から糸が繰り出るやうにどんとんお金がたまること。

（三）それに引きかへ資本家に雇はれてゐる勞働者は、どんなに働いても、折角造り出したものはみんな資本家に取られてしまつて少しばかりの賃銀しか貰えないから、年がら年中貧乏してゐること

（四）勞働者はそれに滿足してゐてはいけない。自分の暮し向きを樂にするために働かなければいけない。それは一生懸命で仕事をすることではない。勞働者は力を合せて先づ團結することだ。組合を造ることだ。組合を造り資本家に對抗しなければならないこと。大凡そんなことを君達に話すために俺は工場へ這入つた。本名がわかつて半月ばかりで追ひ出されてしまつたのだが――そのあいだのことでも。

◆

日當りいゝ處に三四人の君達の仲間が食事が終へて憩んでゐる。工場の煙突からは蒼い大空に煙がゆる〳〵と登つてゆく。向ふの山

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産政黨へケタイも知れぬ者が飛込む樣なる事が見受けられたら極力排斥すべきである。

（二）

又去る事五十議會に於て曲りなりに又不徹底ながら普通選擧の名をつけて選擧權の擴張を既成政黨屋連中が拵へたのである。彼等は之れを眞の普選として受取るわけには行かぬ、又普選として有難がる事は出來ぬ、けれども兎も角も選擧權は擴張されて我々無産者にも大部分選擧權が出來た事になる、故に我が無産階級獨裁政治を實現せしめる道程として出來得る限り之れを利用し、次の改選期までには、ハツキリした政綱を掲げた無産政黨を樹立して、其の政黨の下に只の一人でも多くの代議士を選出し議政壇上に送らねばならぬ、處が此の普選と云ふ者に依つて既成政黨連中は、さはぎ出した、そして中央政黨に於ても政黨の分合作用とか或は新政黨樹立とかと云ひ出した、あの三派合同なんかも、殆んど成立したらしい又殘留派もあつて一派を造る事であつて兎も角も此の分合作用に依つて成つた既成政黨は或は無産政黨の掲ぐる樣な政綱を掲げて來るかも知れぬ否或は以上の政綱を以て來ないとも限らない。

此處だ我々無産者は迷つてはならぬ、どんな立派な政綱を掲げ樣ともどんなに上手な事を言ふともブルはブルだ有産階級は有産階級だ決して俺達プロレタリヤに利益な事をしてくれる氣づかいわない。即ち俺等の運命は俺等の手に依つて開拓せなくてはならぬ、然し最早今までの樣に經濟運動のみでは目的を貫徹する事は不可能である政治の力に依つて現代の法律制度を改革し運動を進捗せしめて我々の社會的地位を向上せしめ、生活の安定を計り以て此の資本主義の鐵鎖より一日も早く解放を期せねばならぬ、

永い間虐げられつゝ來た全國の無産階級同士諸君生れんとする無産政黨の下に走せ參じて一黨を樹立し政治的地位をカクトクし樣ではないか

終りに臨んで同志諸君の健闘を祈る。

（岡山縣第二支局　入谷正志）

愛知縣

我國の實情より生れた戰術を作れ

惡法しかれた吾國治下において吾等も實情より割出した生きた戰術を以て奮戰すると共に各地に散在する吾等は常にあらゆる機會を利用し潛行的に無自覺なる農民及青年をして階級意識に目覺め最後の目的に向つて一擧に達成なし遂げられるやう主力を注ぎ吾等の陣營より強固に全國的團結を一刻も早く組織化すことが今後の吾等が双肩に荷ふ大使命である。全國の同志よ、緊褌一番せよ。（山口安徳）

朝鮮、元山

大衆教化の讀書倶樂部設立

去る二月廿二日後十三時、元山第一普通學校講堂内に於て、讀書人クラブ發起並に創立總會を開き諸般事項を協議したが、其の主なる事項は左の如くである。

理智運動の必然な要求に立つた我等は大義に基いて時代要求と同時に我新文化運動の一部の爲に次の綱領を以て讀書人クラブを組織して自體の充實と一般に亘る青年及藝術運動の眞實を自負する第一線に於て此を宣言した。

△綱領

一、我等は大衆本位の智力の講究

一、青年及藝術運動の眞實の自負

△維持機關及執行委員の氏名

一、庶務部、李鄕、康鴻順。

二、論評部、李松國。

三、詩歌部、李宗敏。

四、劇曲部、孔元昊。

五、音樂部、金鶴俊。

六、書籍部、李教貫。

一、設備

一、各種書籍及新聞、雜誌常備

二、機關紙發刊。

二、會合

一、讀會

二、論評會

三、講演會

四、研習會

五、樂、劇會

六、展覽會

七、探究會

（元山、林仕賢）

三重縣

反動者相手の宣傳

俺達の運動は想像以上の苦鬪……まだ物足りない。然し俺達の苦鬪は單なる苦鬪でなくより以上の苦鬪であつた事を記憶してをつてくれ？

俺達の苦鬪には當局の迫害と壓制の不斷の鬪爭であつた反動的青年を相手にする宣傳？幾回となき檢束や拘留に遭ひし俺達は反逆と不屈の魂の試鍊を經た。俺達は今戰跡を追想し其の慘敗に泣いて居るのだ。思ひ返せば三十餘日の惡戰苦鬪……結果得るものも無く一時落亡？嗚呼虐げられし者よ？津市の宣傳四日市の宣傳全々ゼロだ。

書店に賣捌きを申込んだが日々官憲が巡廻して一部でもあれば持つて行くとは津市觀音附近の某書

も此方の野も青いものが芽ぐんでゐる。初春の午る時、靜かでやわらかで暖かである。工場のすぐ下の谷の底を汽車が通る。工場の三四人のエプロンかけた工場の娘は故郷を思ひ乍ら一としきり騷がしくハンケチを振つた。そして靜まつたとき一人は云ふ。

「たん光一つていつから、淸々とした海岸で大きいイキをして見たいわヌーヘツとね。」

◆

機械はシヤンシヤカンと廻つてゐる。塵芥が電燈を曇らせてゐる。人は木偶でもあるやうに、默りこくつて働らいてゐる。寒さと眠氣の襲ふて來る夜二時頃の工場の中あの隅の方で一人で君達の仲間がさつきから泣きじやくつてゐる十二三の女工だ何にして泣き出したのか誰れも知らない。監督が來た少女に向つて何か呶鳴り初めた。と休憩になつて機械がとまつた。

「……叩き殺してしまふぞ。」それだけが聞えた。こちらの隅で十七八の娘が涙ぐんで呟くのであつた。

「あゝ私を叩き殺してくれるといいわ。私を。私をさ。」そして娘は床の上に俯伏してしまつた。そしてまた泣き乍ら「生きてゐたかあないわ、ないわ。」と、絶望的に叫び摺つた。

私はこの女工の姉が叱られたのかと思つたら、叱られたのは姉ではないといふことを後で知つた。この苦痛を同じやうに味ふ直感的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

店の女主人の僞らざる告白だ、斯の如しだ。其の間に存在する俺の運動を察してくれ、三月二十二日此の日こそ痛快を極めた日は無い爺既郡内の官制靑年團の辯論大會會場は龜山小學校講堂に於て……

岡山縣

無產者の除外團生る

吾支局所在西大寺町幸町に中ブル以上の階級者二十五名を以て幸友會と稱する有產階級團が生れた彼等の會則の大要は會員相互の親睦を計り、會員有益事業の企業會員共同の貯金勵行其他である彼等は現在或國の思想の惡化防止は貯金勵行にあると言つて居る、貯金の出來ざる者は、好きで困難するが如く稱して居る今日の失業者は各自の働きと努力を缺いて居る結果だと放言して居るのみならず彼等は吾々無產者は眼中に置かず除外し壓迫的態度に出でゝ侮辱して居る茲に於て我等無產者同志は彼等ブル團に對抗し根絕破壞すべく目下計畫中である。

倉本晃南

靜岡縣

ブルの遊山地にプロが血の汗

ブル階級唯一の遊山地たる當地にも何百の「プロレタリヤ」が生の欲求の爲めに屈從を餘儀なくされてる東洋一の難工事の稱ある丹那トンネル兄弟達はカンテラ一つが賴りで交通完成の爲めに命を削つてる。

こゝにも御多分に漏れず不景氣風が天城颪と共に吹き捲くつて居るから怠惰と云ふのを隨所に見る搾取階級一の犬等は人員過剩を幸ひとして本番賃銀を下げるし物價が騰つたと云ふ名目の下に、「飲料」は一日十錢も上げるし全く踏んだり蹴つたりとはこの事だ。

こんなに蹂躙されても柔順羊の如き「勞働者」は高い聲一つあげる事が出來ない程に疲れてる貧慾飽なき資本家と暴虐限りない請負業者は結託して尙ほも衰弱し切つた此俺達を如何にして搾らうかと言ふ探求に夜も日も足らざる有樣だ。

例へば俺達「本番一人」と言ふのは「トロ」押す回數に依つて定まるのだ何しろ七十鎖にまで進行してる坑內の事とて去年までは、「十回」押せば「本番一人」となつたのだ夫が前に述べた樣に人間が多く餘つてるので奴等の魔の手は俄然この時と許り襲ふて來た、「二回」增して十二回とした。まだ之にも飽き足らざる豚輩は又も一回增して十三回とした。又この一回が仲々奴等豚輩の心事の卑劣なる事を語つてるのだ晝夜二回交代制で働いてる俺達は十日目每に晝夜番が交代となるのだ其交代日は一人五分勤めるその五分は押す回數十三回の半分六回半だが之は理屈で實際はトロに一ぱい入れて七回押させられる斯くして奴等は少しでも搾る事に腐心してるのだ

もうこうなつては俺達も開いた口が閉さがらない。

俺達がいくら鈍感だつてこんなにあからさまに掌面を展開させられてはノホヽント納まつてる譯には行かないのだしかし今は不景氣風の爲めに陰忍自重して只管時機の來るのを待つてるのだ。

しかし風船玉でも空氣を一ぱい吹き込む時には破發してしまふと同樣に何時無神經で鈍感な俺達でも非常な壓迫でも加へられるならきつと爆發して階級戰に移るのだ

伊豆の國熱海丹那隧道にて　藤島國利

島根縣

政治研究會島根支部生る

今日までの日本の政治は一般民衆を全々無視した處の、徹底的に資本主義的若しくは官主義的政治であつた。しかし民衆は今や目覺めた。今度愈々實施の運びとなつた普選も治安維持法案を出す如き彼等の手にのみ任すことは出來ない彼等が社會政策的政治を必要とせるを見ても無產階級政黨樹立の必要を迫せるを認めざるを得ないのである。茲に於て我等は從來の漫然たる無產階級解放運動の戰線上に、より有機的なる組織形態を與へ、各團體と提携して眞の民衆政治の政權を無產階級の手に奪取すべく、それが目下の急務である。

無產階級の健全なる合法的行進の前に、各機關と團體とに從せらるる待合政治、金權政治をして影をひそめよ。無產階級の手中にある壓倒的多數の投票權を以てブルジョア政黨が[illegible]とするその[illegible]的の力を[illegible]せしめよ！

[illegible]大[illegible]の如き宣言を以て今度政治[illegible]會[illegible]支部が[illegible]、山根[illegible]他の[illegible]氏に依つて創設された（山根理三郎）

支局の惡戰苦鬪振り

僕が「進め」を知つて四ケ月、第一卷第四號のメーデー號から支局を初めたと思ふ、今第三年を迎へ進めの第三メーデー號を手にせんとしてゐる。全く今昔の感に堪へない、追憶すれば三年前、大正十二年二月吾「進め」は彗星の如く世に現はれたそして惡戰苦鬪の進めの支局の一員として微々たる運動の歩みを進めて今日に至つた。

（山根積）

な感情、そしてこのニヒリスチツクな絕望それは二つ乍ら全ての女工の性情である。工場の中にはこの流れが滔々として流れてゐる。

◆

「いゝ日曜だね。」

「明るくつて光りがきつ過ぎるわ」

「色が黑くなるとでも云ふのかい」

「でも工場へ這入ればすぐ白くなるよ。」

「白くなるのぢあないわ。靑くなるのよ。」

「そしてつまりは――」

「肺病で」

「骨を」

「さうだわね。これ稼ぎたいと思ふ家は骨にならなければ助けないのね。」

◆

「君はその指をどうしたんだい」

「ベトをかけるときやられたんだ」

「痛かつたらう。」

「そのときは何んでもないんだが後で隨分痛むもんだね。ケガつてものは。」

「うむさうかね。で會社から幾等貰つたんだい。」

「十五圓さ。」

「たつた。」

「さうよ。この一と節なら十圓なんだ。根からだから一本十五圓なんだよ。もう誰れだつて同じだよ」

「指一本十五圓、へえー」

◆

「諸君を縛つてゐるところの頑い鎖の賃銀の鎖は、諸君を貧困と屈辱と疾病につないでおく。諸君は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝鮮階級運動の轉機

在京城 長沼明

朝鮮は種々なる意味に於て年中忙しい所である、夫は地方色の現はれで社會運動の傾向が日本内地と相異ると云ふ點のものではない。こんな見地から觀察せぬと往々誤認に陥るから先づ用心の爲に蛇足する。最近表面運動として最も景氣よく現はれかけたものに朝鮮民衆運動者大會があつた、之は四月號に一寸その氣配丈けを書いて置いたが、主催者は火曜會之になり後援するに北風會系の思想團體、朝鮮勞農總同盟の一部人士があつた、北風會の人々から内容を聞くと參加團體は各種別を合せて二百餘團體に達したとの事である。名儀だけでも實に尨大なる會台と云はねばならず、又社會一般から多大の注目を惹きかけたのは無理からぬ話である。同會主催の目的に就て云へば種々の解釋が生れる同會までに至らなかつた關係から尚更の事云はゞ勝手な解釋が生れる譯である。併し朝鮮現下の運動界の狀態から云へば、久しく官憲當局の手に依りなされて居る壓迫に對して穩かに出で稍もすれば沈滞せんとする運動界に一波動を與へんとしたもので主催者が聲明した「ホンの懇親會」と云ふことが全く眞實だつたと思はれる。同會を土臺として一派の活躍と云ふが如きは第二段の目的だつたではなからうか？右の運動に對してソール青年會系の人々は火曜會の歴史を現在の朝鮮勞農總同盟の存在等より論斷して該民衆運動者大會は懇親の假面を冠つて一派の野心家が自己の爲に全朝鮮の社會運動戰線を紊すものと認め率先して反對の氣勢を擧げ勞農總同盟の一部者朝鮮青年總同盟の一部者其他と相呼應して可成な頭數を率ゐ相拮抗せんとして此處に完全なる二分野の決定を見んとした。併し幸か不幸か此大會前夜深更突如警務局から絕對禁止を命ぜられ、僅かに其翌日の夜地方より參會して居た人々が赤旗行列を行ひ檢束された丈けで全く碎かれて了つたのである。警務局の禁止理由は或一部で唱へられる様な北風會系の人々が同大會に依つて運動の勢力をロシア方面に示し經濟的援助の復活を試みんとし之を嫌忌した爲であることはなく一寸した流言から開催後の煩らはしさから避れる爲に官僚の一本調子でやつたと云ふのが本當であらう、何しろ他人の腹を探るのだから或ひは間違つて居るかも知れぬ。其後に黑旗聯盟事件がある。内容は抜きにして兎に角共産主義者の秘密結社である、そして忽ち檢擧されて了つた。此人達は幾分北風會系に色彩が似て居た事は事實である、次にソール青年會の人達の間に社會運動者聯盟の様な組織計畫があるが之又官憲當局の内諾を得ぬ限りは絕對に不可能で若し敢行すれば黑旗聯盟の亞流であることは明瞭である。

誠に種々な事實がある五月一日のメーデーは如何！勞働者唯一の日のその日は殊に總べてを禁止されたのである、講演會等は勿論のこと茶話會式のものでも嚴禁され三々伍々各派の事務所に集つた闘士達は刑事附きで世間話に夜を更かした。

先づ最近の事實の主なるものを擧ぐれば上記の如きものである、更に諸君に傳へることは昔から勞農總同盟や青年總同盟（之は兎も角朝鮮の、實際運動の統一機關である）が全然集會を禁止され僅に名のみに依つて存在を示して居る如くに見える。されば兩同盟を廻つて稍反同勝ちのソール青年會と北風會等が折合ふ機會もない譯である最も大なる機關が半藥不隨にされて居るのである。

讀者諸君！此外にも思想團體が無いのではない併し是等を措いて他に以上の機關を求めることは不可能だ實際機關も之を後援若くは指導すべき位置にある思想團體も總てが抑へつけつれて身動き一つ出來ないのが朝鮮の現在である。

加之此數日前警務局方面で治安法の實施を幸にして共產系の團體にして妄動するならば一刀兩斷と警句？を吐いて居る、先づ以上に於て朝鮮に於ける現勢力と壓迫狀態を說いたが更に他の事情に就て觀察しやう。廣汎なる解放運動として朝鮮に於ては特に階級運動と密接なる關係を有するものに獨立運動があつて以夷征夷の策や〇〇〇〇〇的〇〇等に於て可なりの犧牲を擲つて來たが結局成功せず現在では之等運動團體も漸く階級運動團體たらんとしつゝあれは此點は深く論ずる必要はあるまい。次に運動の環境に就て見るに從來運動者はロシアに支那に其根據を置き稍もすれば二階から月藥の感があつた之等の事實に就ては一々詳述の要はあるまいが之も幸か不幸か隨分從來と勝手を異にして來て居る將來第三インタナショナルの活躍等になれば又話は別になるが目下の狀態は斯くの如きものである。運動が相對的であれは正にこの多くの材料に依つて朝鮮社會運動が一轉機に立つて居ることを知るのである。官僚の死物狂ひ的な壓迫に重ねる壓迫從來の援助の斷絶而も階級意識は燎原の火の如く燃え上らんとして居る、焰の行方は内に深く僕は今後が本當に力強い深刻な運動が朝鮮に起る時だと思ふそして一面差支へない部分が純經濟的運動となつて勞働爭議に現はれるであらう事を！（一九二五、五、一七）

（二十二頁五段よりつゞく）

その鎖を切斷せずして解放の光りを見ることは出來ない。その鎖を切斷するのは諸君のその腕の力によるならば、その團結の力によるならば、ざうさもないのだ。

諸君よ、我々は心を合せ、力を合せて資本家に反抗するのだ。我々は永い間……」

「あいつの眼を見ろよ、すごいぢやないか。」

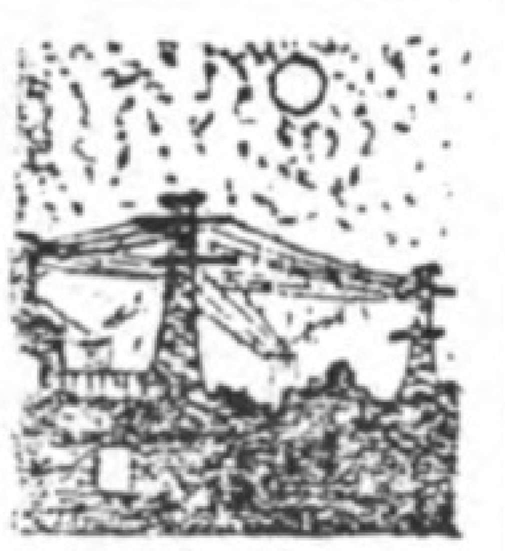
「熱心だな。」

「あいつは嘘ぢあねえらしい。あいつの云ふことだけはほんとだせ。」

彼等は云ふことを中々肯んじない。けれど一たん承知すると必ず實行せずにはやまない。

（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



北陸農村運動への一考察

黒子久生

これは研究と云ふ程に纏まつたものではない。農村と農村の青年に就ての感想……それもある限られた地方のことだけだ。統計的に農村と農村を顧客としてゐる町との、勞賃や何かの關係に就ては、既に「闘ひ」に書いて置いたから茲にはその事に就ては書かない、

先づ私が主題とする農村は北陸の石川、福井の兩縣の農村だ。福井市は機業家で持つてゐる都會だが、その性質上、勞働運動が全然發達してゐない。漸く出來た勞働組合も、縣保安課長の支持の下に統卒せられたもので勞働組合の名を藉りた、その實は資本家擁護團體のやうな、時代錯誤的な組合だ。勞賃は對露貿易で維持されてゐる町で、今後は少しは活氣づいて來るだらうが、現在までの所では、革命後の日露國交斷絶の結果、商況不振で大小の商店は悉く閉鎖同樣だつた。此處の勞働運動は敦賀港の仲仕連中だが、數に於ても少いばかりか、國粹會を組織する可能性はあつても、勞働組合を組織し得る可能性は今日の所ではない。

結局、農村の青年に就て調査して行くのが、縣下の青年を知る上に於て、最も適當なやうに思ふ。農村青年の頭に深く浸潤してゐるものは、政治思想ではなくて、文學思想だと云ふことに注意しなければならぬ。これは私の思考する所に依ると、一時代前の青年達が宗教思想に支配された結果が、次の今日の青年の間に、文學思想となつて現はれて來たのだと思ふ。現に石川縣の暁烏敏一派の宗教青年は、縣元の石川縣は勿論のこと福井縣にも可成りにゐる。そして福井詩話會と云ふのがあつて、これが縣下の思想的青年の中心勢力をなしてゐる。そして之等の青年の思想は主として唯美的傾向である所から、政治問題や社會問題からは全然かけ離れてゐる。勿論、立憲青年黨とか、同志會とか名稱を持つ政治青年の結社も存在はするが、實際に於て左程に有力なものとは思はれない。大野町出身の青年代議士猪野毛利榮氏の一派が之等青年の中心勢力となつて、活動してゐるやうだが、未だ石川縣に於ける永井柳太郎氏の勢力が、同縣下青年の心理を魅惑してゐるのと較べては、大分の遜色あるは止むを得ない。小作爭議も殆んど起らないと云ふのは、比較的に土地が肥沃なのと、大地主が少くて個々の小作人の勢力が強く、團結して地主に對抗しなくとも、年貢米の減額運動が大抵は効を奏するから起らない。そして小作人とは云つても、純小作農は極めて少く大部分は、多かれ少かれ自作の田を持つてゐる。自作の田を持つてゐない者は、寧ろ半分は土工や其他の勞働をしながら、農繁時だけを地主に雇はれる農業勞働者となつてゐる。だから少しでも思想的に目覺めてゐるのは、農村でも富裕階級に屬してゐる。そして彼等青年の生活が、可成りに餘裕があり、現實の生活の闘爭から遊離してゐる所から、彼等は自然と文學に趣味を持ち、その方面に彼等の生活力の過剰を消費する。之等の青年を動かすものは、經濟的な闘爭思想でなくて、人道主義的な正義觀念からしなければ駄目だ、そして人道主義的思想運動が、宗教化して來る危險は、特にこの北陸人には多分にあるのだから、これは科學の力に依つて、絶えず打破して行かなければならぬと思ふ。

農村の政治青年に於ても、同樣のことが云ひ得られる。特に之等の政治青年は、多く舊式政治家の型を、そのまゝに模倣しやうとする傾向が、無意識の裡に可成り強く動いてゐる。幸に之等青年は宗教的影響からは免れてゐるが、その反對に惡い現實主義者で、その極端は悉く日和見主義となつて無節操を政治家たる一資格のやうに考えてゐる者が多い。

流石に金澤の永井柳太郎派の政治青年には、兎も角も或種の理想に燃えてゐる、純粹な政治青年も多いやうに聞いだが、此處にも勞働組合は組織されてゐない、尾小屋鑛山の組合も、先年の罷業失敗以來、潰滅して終つてその跡を留めてゐない。農村方面にも全然未着手の儘で殘されてゐる。隠れたる篤學者はあるが、その人達は自己一人の研究に沒頭して、土地の大衆とは餘りに縁遠い。然し何と云つても北陸の小京都と云はれるだけに、福井とは違つて、少しは活氣があり、今は解散させられて終つたが四高の研究會もあつて、思想的に北陸の他縣と比較しては、遙かに先行してゐる。文學青年も北陸詩人協盟とか、または[illegible]社の暁烏敏一派も、宗教的に團結してゐる。然し之等は寧ろ打破しなければならぬ青年運動であるだらう。

唯、水平運動だけが、總ての青年運動の眞先に立つて、勇敢に進んでゐる經濟運動も、或ひは水平社の方面から起つて來るだらう。北陸で最も目ざめた先驅的な運動は（新潟の農民組合を除いて）、この水平社の運動であり最も思想的な青年はこの水平社の青年同盟の人々だらう。

大概の人は北陸は駄目だと云ふ北陸へ行つた人に、その感情を聞くと殆んど全部が、絶望的な口吻を洩らすのだが、實際に於て思想的には、一時代も遲れてゐるかも知れない。そして個人主義的思想と利己的現實觀が一般民衆の頭に根強く浸入してゐる。團結して共に敵に當ると云ふよりも小器用に立廻つて、自分だけ巧に相手にブラ下らうとする所に、大衆運動の內部的危險性を含んでゐる。之れは加賀百萬石が前田の支配下にあり越前七十萬石が松平の支配下にあつた、封建時代の「死なぬ程度で飢しめた」政策の民衆に與へた影響の結果だと思ふ。だから、北陸方面に於ける青年運動は、理想論を眞先に振翳すよりも、寧ろ人間の欲望心に從つて、それを巧に導きながら、その中へ理想を溶け込まして行くのでなければ、大衆運

動としての結束も効果も擧がらない。唯、純粹に理論だけの講演をして來る結果が北陸人は駄目だとなるのだ、その證據には、社會主義の講演會には見向きもしない者が、小作米減額の相談會となると來るワ來るワ忽ち一杯で、而も熱心に解放運動の理論をも聞く。「只より安いものはない」と云ふ言葉が、彼等の智識に對する標準なんだから。だから北陸人は駄目だと云ふ前に、この北陸人氣質をしつかりと掴んで行けば、青年運動は成効する。永井柳太郎氏などは仲々巧にこのコツを使つて、青年を結合させてゐる。一野に咲く一叢の草も、空に輝く一點の星も」此の永井代議士の演説に拍手する北陸青年は、決してその演説は解つてはゐない。唯譯からぬ裡には、大臣になるだらう永井代議士だから「そしたらワシラも、何か甘い汁が吸えるぢやろう」から喝采するのだ。金澤市電の爭議に、絹物で金指輪の一つも嵌めて出やうとする爭議團なのだ

だから駄目だと云ふならば、私はその言葉には反對する。その駄目なのは、北陸人が駄目なのでなくて、北陸人の性格を無視した一般的な青年運動を、行はうとすることが駄目なのだ。親鸞の布敎の結果に見ても、北陸人の思想的にも實行的にも決して駄目でないことが判る。一向宗の騷動に際しての受難振りに見よ、今日の「本願寺樣へお詣り」に對する、北陸人は駄目ではないのだ。

熱狂に逆らふな、華美に陷らずに、高踏的に出ずに……これが北陸青年運動の大眼目だと思ふ。そして絶えず現實の問題を、一歩一歩と理想に向つて近づける可く、根氣よく續けたならば、決して北陸の青年運動は駄目ではない。そして今日の處では政府青年よりも文學青年若くは嘗て文學青年であつた者の方に寧ろ新思想の理解が多い。その方面への運動の方が、可能性があると思はれる。（完）

世界無產階級 六月の歴史

四日——（大正十一年）「機械勞働組合聯合會」東京に創立さる

五日——（大正十二年）「醜聞日本共產黨」の一味檢擧さる

十一日——（一九二一年）國際共產黨婦人會議モスコーに開催さる

二十日——（一九二〇年）アムステルダム國際勞働組合聯合會、ハンガリイの白色恐怖に對して同國の經濟封鎖を行ふ

廿二日——（明治四一年 社會主義者山口義三出獄歡迎會解散後大杉榮等赤旗をふつて官憲に捕ろ所謂「赤旗事件」なり

廿三日——（一九二二年）ドイツ外相ラテナウ國粹黨員に暗殺さる

廿八日——（一九一九年）ベルサイユ平和條約締結さる

廿八日——（明治卅九年）日本社會黨演說會東京神田に開催さる幸德傳次郎、木下尚江等出演、幸德初めて勞働者階級の直接行動を說く

廿八日——（大正八年）サラリーコンス、ユニオン（俸給者同盟）東京に創立さる

廿八日——（大正十三年）政治政究會創立大會東京に開かる

堺利彥水平社に糾彈さる

五月八日大阪中央公會堂に於て開催された全國水平社大會に例の共產主義王、堺利彥君は態々大阪に赴むき大會を傍聽しつゝあり、午前十一時三十分、一代議員は起つて「敎科書」に吾々を侮辱せし文學あり、又堺利彥氏の猫の首ツリに「米騷ぎ」はエタが起したと侮辱したと提議したところ滿場堺を殺せと叫び騷然たり、堺氏は代議員の後になりしがこれを聞き顏色、土の如く帽子と傘を殘して脫兎の如く、雨中浪華橋の方に一目散に逃げられた。

堺利彥君に與ふ

堺利彥君は共產主義者として吾々水平社員が尊敬して居た。

然るに君の著「猫の首ツリ」（大正十三年二月廿五日發行）を讀むと、四一八頁米騷動の後、七行中所々で卒先して蜂起した「特殊民の如きはいよ〳〵特殊の取扱ひをすべきである」云々とある。是れは實に吾々水平社を侮辱するの甚だしきものである。

君は暴君の如き怨恨をもつて、吾々を睨しくみてゐる、苟も共產主義者ともあらうものが、かゝる言辭を弄してゐるのは憎むべきものとして吾々は徹底的に糾彈をせねばならぬ。近來社會主義者と稱する人に堺氏の如き卑しむべき人がある。吾々は進め社が堺氏に通告して該書籍を全部燒却せしめられんことを切に望むものである。

（山陰水平社　田中生）

或妄想狂の獨白

見　億

世界ぢうの馬鹿者達を一堂に集めて
お互ひ氣儘な熱を吹かせ
勝手な議論を吐かせ
自由な協議を遂げさせてさて
出來上つた計劃を見る
まあなんて馬鹿〳〵しいものが
　出來上つてゐることだらう
その馬鹿らしい計畫を
實行に遷させて
そして……俺は
峰の松の木の頂にでも登り
紫色のパツトの煙を
まんまるいわに吹いて
眺めたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

近世社會主義史(八)

——各國最近の社會主義——

春田正

ドイツ

一八九一年、エルフルトの會議に於いて。ドイツの兩社會民主黨が合併されるや、その勢ひは昇天の槪を示した。今その有樣を次表で示さう。

年	投票概數	議員數
一八八一	三一萬	一三
一八九〇	一四二萬	三五
一八九三	一七八萬	四四
一八九八	二一〇萬	五六
一九〇三	三〇一萬	八一
一九〇七	三二五萬	四三
一九一二	四二五萬	一一〇

此の樣に社會民主黨は目覺ましい發達をして來たが、實際問題に打つかつて、內部で左右兩派に意見が分れるに至つた。

最も早く(一八九九年)マルクスの學說に批判を加へ、此に修正的意見を發表したのは、長い間ロンドンへ亡命してゐたベルンシュタインであつた。彼はマルクスの辨證法、唯物史觀、剩餘價値學說、社會進化の革命主義に對して巨細に檢討をして、これに修正意見を發表してゐる。彼の說を一口で言へは、詰り、資本主義社會の崩壞は、マルクスの言つた樣にさう近い將來に來るものではない。だから徒らに、社會の近き將來の崩壞等といふ考へに嚙ぢりついて居ないで、社會民主黨は宜しく現實の問題に面して、社會改良的な意見を採用すべしといふのである。此に對して直系マルクス主義者カウツキーは直に大反對を唱へ、ベルンシュタインの說は社會民主黨の精神を知らざる言であると言つてゐる。此の兩者の論戰はドイツの社會主義を理解する上に興味あるものであるが、私は此處では述べまい。兎に角社會民主黨內に於いては、一八九九年のハノーバーの大會に於いて、マルクス修正派と正統マルクス派の對立が起つたのである。その後の大會に於いて、屢々修正意見が提出されたが、常に黨議としては否認し去られた。併し否認されたにも拘はらず、社會民主黨は事實上修正主義を採用して居つたことは注意すべきことである。又修正派の貢獻は、その勞働組合運動を發達させたことである。爾後勞働組合は修正派の力強い後援となつたのである。

斯くて、一九一四年七月、世界大戰が開始されるや、初め、社會民主黨は極力政府に反對の意を表し、非戰運動に努めたが、ロシアが動員するや、內部に少數の反對者はあつたが、黨議として戰爭に贊成することになつた。中には社會民主黨の頭株で、自ら進んで參戰したもの等も續々出て來た。しかし時が經つにつれ、戰爭熱は次第に衰へ、一九一五年、社會民主黨の非戰派議員二十名は軍事豫算に反對投票をし、一九一七年には非戰派を中心として、獨立社會民主黨が初められるに至つた。

所が此の獨立社會黨に屬するものは帝國主義に反對であるといふ點で一致してゐるだけであつてその主張は實に多種多樣であつた。その內部で最も急進分子は所謂スパルタクス團で、彼等は社會民主黨の生温かいやり方に非常に反感を持つてゐた。又一方右翼には修正派の連中も加はつてゐた。

やがて一九一八年ドイツに革命が起つたのである。

此の革命で最も働いたのは、獨立社會黨員であつた。而して多數社會黨は之に和した。一九一八年革命政府を樹立するに當つて、獨立社會黨は多數社會黨と共に各々三人づゝの委員を選んだ。處が、問題は此處に芽ぐんで來たのである。即ち獨立社會黨は勞兵會を最高權威とする無產者獨裁の考へを持つて居たのに、多數社會黨はエルフルト綱領による選擧法に從つて、憲法制定國民議會の選擧を行ふことに決議して了つた。スパルタクス團の不平、憤慨はやがて各地の不平分子を煽動して、同盟罷工を起さし、獨立社會黨は十二月政府を退いた。次いで一九一九年一月その時ドイツ共產黨となつてゐたスパルタクス團の[illegible]革命が起り、此の時共產黨の領袖ローザ・ルクセンブルグ及カール・リーブクネヒトは社會黨側の兵士のために殺された。

一九一九年一月國民議會が招集された。此の時多數社會黨の議員は一六三人、獨立社會黨は二二人の當選を見たが、翌年は獨立社會黨が勢力を得、多數社會黨が一一三人に減つたのに獨立社會黨は八一人になつた。所が獨立社會黨はやがて第三インターナショナル贊否問題で二派に分裂し、贊成派は多數で、共產黨と合同し、合同共產黨を組織し、カウツキー等は獨立社會黨に殘るに至つた。所が又合同社會黨內に於いても、絕對議會使用反對の一派が除名され、彼等は別に共產主義勞働黨を組織するに至つた。

斯くて、共產主義勞働黨は現在ドイツ社會運動の最左翼であるのに對して、社會民主黨はベルンシュタイン派の社會改良政策に依り、その右翼を固めるに至つた。而して獨立社會黨はその中間に坐して兩者の調停の役目を受持つてゐたが、一九二二年多數社會黨內に合同するに至つた。兩派の合同は社會民主黨の威力を甚だ增大し、議會では一七三の議席を占めるに至つた。併し一九二四年の選擧を見れは社會民主黨は、百名に減少し、共產黨は一五名から六二名に飛躍してゐる。

ドイツは世界でロシアに次ぐ社會主義の盛んな國である。併し彼等はその誇るべき理論と勢力を抱きながら、而も敗戰國としての外部的壓迫の重荷を積んで、孤疑と逡巡を之事としてゐる。今後ドイツの社會運動は如何なる方面に歩を向けるであらうか、それは我の豫言を許さないがしかし興味ある問題である。

フランス

フランスの社會主義は一八五一年來、一時その影を失つたが如き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

有様を呈したが、又その頭を擡げ初めるに至つた。

一七八九年から一八七一年に至るフランスの連續的政治騷動は、ドイツの様に二世紀も三世紀も續く歷史を持つた鞏固な政黨を作ることが出來なかつた。そしてフランスの社會主義の特徴は、その指導者を取り巻いて、紛爭、調停、分裂を繰返すことであつた。

一八七一年のパリーコムミユーン（パリー市民が時の政府に反對して彼等自身で別に一の政府を建て七十日間之を持續した）の鎭壓はやがてその時代のフランス社會主義の消散を來した。

而して、マルクス主義を初めてフランスへ輸入することに骨を折つたのはゲードであつた。一八七九年、フランス勞働黨が成立するや、ゲードの起案になる、マルクス主義の綱領が、その黨の綱領中に採用せられるに至つた。此の勞働黨の中には無政府主義者も居て初め行動を共にして居たが、後に政治運動認の立場から黨を脫退した。是より一九〇五年合同社會黨が出來るまで、フランスの社會運動は小黨分立を繰返した。

勞働黨はやがて、マルクス主義を穩當なものとして、重要企業等の國有を主張するポール、ブルツスの下に可能派の分立を來した。此のブルツス一派の現状主義はやがてアルマン等の革命的社會主義勞働黨を創くることになつた。以上のゲードの勞働黨に離れて存在して居たものに、ブランキー派とジヤン、ジョーレス、ミルラン等の獨立社會主義者があつた。

ブランキー派は一八九八年、革命社會黨を組織して、一切の改良主義を排し、政治的革命主義を奉じた。獨立社會主義者は、一八八五年に、マロンに依つて設立された社會經濟協會にその思源を發してゐる。その中には、共和的社會主義者や、急進社會主義者が屬してゐる。一八九八年、彼等は獨立社會主義者聯盟の名の下に政界に小勢力を持つに至つた。

フランスの社會黨は、一八九九年ミルランの入閣問題のため二派即ち革命主義と改良的漸進主義とに分れた。フランス社會黨とフランス國社會黨とが之である。併し、一九〇四年、アムステルダムで開かれた國際社會主義者大會の忠告により兩派の協議會が開かれ、翌年兩派は合同し、合同社會黨が生れるに至つた。此で一先づフランスの社會主義者は合同されたの感があるが、しかし、分立はフランス・社會主義の精神であつて、この精神は必ずしも死滅した譯ではない。

兎に角合同社會黨の選擧成績を示せば次の様になる。

年	投票概數	議員數
一九〇四	八七萬	五四
一九一〇	一一二萬	五四
一九一四	一三九萬	一〇三

斯くて社會主義はフランス政界の一要素となつた。

フランスの社會主義は前のサンヂカリズムの項で一寸述べて置いた様に、政治運動と經濟運動（非政治運動）とが併行した形で行はれてゐた。そして茲に於いて、政治運動は大體に於いて、合同社會黨で統一され、經濟運動は、シー、ジー、テーで統一されてゐた感があつたが、社會黨は今日では共産黨と對立し、サンヂカリズムの方は、シー、ジー、テーとシー、ジー、テー、ユーに分裂して了つた。シー、ジー、テー、ユーは必ずしも政治運動を排斥しない。のみならず屢々政治上の共産主義と行動を共にする。合同社會黨が分裂して社會黨と共産黨に分れた動機は一九二〇年に起つた第三インターナショナル參加贊否問題である。一九二四年の五月の選擧によれば社會黨は五三人から一〇四人に共産黨は一三人から二六人になつてゐる。

併しフランスの社會主義はその政黨の數を以てその勢力を決定することが出來ぬ。種々の主義上の相異は、一政黨に組織せられた內部に於いても、群衆の精神を秘めてゐるのである。

其他

ベルギーでは一八七九年、社會黨が出來た。それからブランキー派及その他の組合が續々と出來た。之等は一八八五年合してベルギー勞働黨となつた。一九二一年の選擧の結果によれば勞働黨の議員は六六の議席を占めた。現在では共産黨の運動が段々猛烈に起つて來てゐる。

イタリーでは一八九三年社會黨が出來た。此の黨は途中種々な變遷分派を生じ、一九一九年にはその勢力絶頂に達したが一九二一年頃より漸次衰退に赴き、一九二二年、黨勢盛んになつて來たファスシズムのために乘ぜられやがてムスソリニーの反動天下となる。斯くて現在の社會黨、共産黨はその勢力眞に微弱である。此の外イタリーにはイタリー社會主義同盟、無政府主義同盟、及六萬の會員を有する靑年社會主義者聯盟が熱心に運動を續けてゐる。その他早く此の地へはいつて來たサンヂカリズムを初め、色々の勞働組合運動があり、一九二二年それ等の勞働組合は合して勞働者同盟を造つた。

オーストリア及ハンガリーは共に一九一八年革命が起つたが、現在では反動政府の下に大して頭も擡げられない有様である。

オランダの政治的社會運動の初まりは一八九三年の社會民主黨の組織であろう。現在では少數の共産黨と共に社會民主黨が優勢の時代である。勞働組合運動で最も勢力のあるのはサンヂカリズムであるが、此も現在では衰退の状態にある。

其の他スペイン、ポルトガルに於いては、サンヂカリズムの運動が盛んであるが、社會運動は大して述ぶべきことを有しない。

デンマーク、ノールウエー、スエーデンの間には三國聯合勞働運動が行はれてゐる。後一九二〇年サンヂカリストと社會民主々義者との間に意見の相異を來し、分裂を見るに至つた。

アメリカに於いては、現在ではアイ、ダブリユ、ダブリユ、の政治否定運動と、人道主義に基き、反社會主義的漸進的進歩主義を有する、アメリカ勞働聯合會が勞働運動中で對立を示してゐる。政治運動としては、社會黨、社會民主黨、共産黨及共産勞働黨がある。近頃左翼的社會運動が漸次勢力を得て來た事は注目すべきことである。

日本及支那については此處では省くこととする。（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

アメリカ奇談（一）

前田河廣一郎

女神像と一人のロシア人

こゝに、一人のロシア人と、一つの鑄像とがあつた。

ロシア人は、謂はゆる「劣等移民」として、米國の上院議員達から、毎も顰蹙される種類の、貧しいロシア移民である。彼は根が正直なムジイクであつたが、小ロシア地方の地主の爲めに最後の襯衣一枚をまで剝ぎ取られそうになつたので、中年に都會へ流れ出てさゝやかな行商などをして糊口を凌いでゐたの男だつた。彼は、衷心人生といふものは、こんな苛酷な地獄のやうな場所ではない筈だと疑つて、いつかしら機會があつたなら、金の唸るアメリカで一と儲けして、樂な生活を送らうと心密かに、ロシアを呪つて居つた。機會が果してやつて來た。それは彼の親戚に當る男が、可哀そうなイワン君を救つてやらうといふ氣持から、出稼せぎ先のアメリカから、わざわざ渡米の旅費を送つてよこしたことであつた。

イワンは雀躍りに喜んだ。彼は少しばかりの英語の知識と黒麵麭とを用意して、ヨーロッパを經て、太西洋横斷の汽船の三等客に乘り込んだ。彼と同じやうな目的をもつて、その汽船に乘つたロシア人は二百人もあつた。歐洲大戰前の話である。

一つの鑄像といふのは、北米合衆國ニューヨーク市の、港灣の上手寄り一哩半ほどの距離にある、ベドロー島といふ小島に建てられてある銅の女の像で、内部には縱横に階段が築かれてあつて、爪尖から指の先端まで百五十一呎一吋といふ鑄像の高さを人間が上下出來るやうな仕掛になつてゐるものである。それは、曾て、アメリカ合衆國が、英國から獨立して一大共和國を建設した當座、パーソルデイといふ彫刻家に依頼して、フランス共和國が、海を隔てた姉妹國へ餞けしたものであつた。その巨像は、晝は、世界各國の船舶の蝟集する、青磁のやうなニューヨークの港灣に、白堊燦然たる摩天樓の都市線を背にして矗乎と沖天に聳え、滿身からは潮風に鑄た綠靑を噴いてゐる。それから、夜になると、電氣の仕掛で、どこからともなく射す皎々とした光を全身に浴びて、遙と海を隔てたヨーロッパ諸洲へ眼を据、高く翳した右手の炬火からは燦然たる光をすべての碇泊船へ向つて放つてゐる。この巨大な美人の像は、「自由」の女神像と呼ばれ、歐洲からアメリカへ渡る旅人にとつては、アメリカそのものゝ精神を象徴してゐると思はれるほど親しみ親しいものである。

祖國を壓政と貧とに追ひまくられた、我が襤褸姿のイワン君を載せた汽船は、徐々としてニューヨーク港灣を指して這入つた。稅關のあるガバアナース島へ近づかうとする一刹那、イワンは何氣なく甲板から、その自由の女神像を振り仰いだのであつた。

自由！——自由！

何といふ偉大な、抱擁性に富んだ、アメリカ共和國であらう！

イワンは、凡ての正直なロシア人と同じやうに、センチメンタルであつた。彼は眼に淚を一杯湛へてじいとその青い女神像をみつめてゐた。

「俺はやつと幸福な邦へ辿り着いた。今度ロシアへ歸るときは、俺は幸福なスラヴとしてでなけりや歸らない！」

彼は、その咄嗟、かう固く心に誓つた。

それから幾年か過ぎた。貧に追はれ官憲の壓迫に苛められてロシアを逃げたイワンは、不思議と、アメリカといふ邦が、豫想した通りの幸福な邦ではなくて、依然として彼の身邊には、ロシア以來の貧と壓迫とが附纒つてゐるのを發見したのであつた。勞働と云つて左程暢氣に働き口とてはなかつた富める者は惡肥りに肥つて行き、貧しい者は骨までも削られる、といふのがアメリカの風習であつた。それはロシアとは幾分ちがつた國柄ではあつたがロシアのやうな國では人間が大自然の一部にあつてそこに何か慰藉といふものがあつたに反して、アメリカでは、人間といふものは機械の一部分にしか過ぎない慘めな動物であつた。思ふに仲間の者のうちで、成功する者もあつたが、それらは地主のやうに狡猾であるが、警官のやうに殘忍な人間に限られてゐた。イワンは憤つた。彼は人生に欺かれたものゝ憤りを發した。だが、結句彼は自由の女神像の前で誓つた自分の決心を忘れはしなかつたと云ふのは、彼は、決して幸福なスラヴとして二度と再び祖國の土を踏まなかつたのである。

歐洲大戰當時、彼は、テロリストとなつて、國立銀行の前で爆彈を投じた。彼の全身は、粉微塵となつて十間四方の壁に飛散した。

話はこれでけである。

私はこの無氣味なエピソードをもつてアメリカが世界に何を教へるかといふ一文の書き出しにしたいと思つてゐる。註釋。「銅像は、すべて、亡き人の讃功を記念せんが爲めに建てられるものだ」

讀むべき良書の紹介

改訂 資本論解説

マルクスの資本論は尨大にして頗る難かしい、一回通讀するに約三ケ月を要する、其簡單なものにはカウツキーの資本論解説がある譯者は資本論全譯の著者マルクス學の一人者高畠素之氏である。

日本には隨分下らぬ本が名前計りよくて讀者をつるものがある。本書の如きは社會主義者の必ず讀まざるべからものである。

經濟科學十二講

露國の社會主義學者ボクダノフ著を赤松克麿氏によつて翻譯さる。この書は現在ロシアで教科書として用ひられてゐる良書で初歩の經濟學研究にもつて來いだ。

軍國主義論

獨逸のカール・リープクネヒトの原著、新明正道氏の譯、原文に最も忠實未だ本書を讀まざるものは社會主義を語るべからず。

唯物史觀の改造

ツガバラノウースキイ著、高畠氏譯、日本に於ける唯物史觀の書は澤山あるが、どうも自分勝手な排論の翻譯にすぎない。堺枯川氏のゴルテル唯物史觀解説もあるがゴルテルの唯物史觀解説は兎角正鵠を缺いでゐると云はれてゐる。堺氏の此の書をよんだものは、本書を讀んで修正すべきである。原著者は新カント派のマルキシストである。

社會主義及び社會運動

ゾムバルトの原著で池田龍藏氏の譯で社會主義の研究書

社會主義批判

社會主義研究の權威室伏高信氏の著、座右に備ふべし。

編輯便り

▲いつも乍ら忙しい生活である。よの中は益々忙しくなつて行くであらう。この頃兎角健康勝れず、何にかに心許りあせる。

▲治法は遂に實施された今迄他人をオポチユニストだの改良主義者だのと罵ることをもつて職業としてきた様な人達の今後の態度こそ見物である。我々も一生懸命行るが、之等の人達にもしつかり頼みたい。

▲私は誰が何んといつても人を道具にする樣な奴は嫌ひだ。私は民衆の名に於て民衆を道具にして自分達の勢力慾乃至政權慾を滿足させやうとする樣なグループが、若し社會主義運動界にあつたとしたら、私は飽迄反抗する。それはどんな美名の下に粉飾されやうが、その根本に於て被支配者解放の精神に反するものだ。

▲私は思ふ。我々は常に無政府主義の精神に聽從すべきであると。無政府主義の理論は非科學的であるが、その精神に至つては我々の聽從すべき點が多いと思ふ。

▲本月も非常に原稿殊に投書が多くて後廻しにしたのが多い。本號は主として小助が編輯してくれた校正が初まると小助の忙しくなること甚しい。この小助氏は頭腦明折意志堅固、その點では非難はないが、寫眞をとること甚だ下手で例の寄附された寫眞機で片端から人のことを眞黒く乃至眞暗く撮つて歩くので、この頃惡評頗に高い

▲青葉の夏來る。我が社同人はマルキシズム研究會をやらうとする「信者の如く戰ひ、懷疑者の如く思索せよ」だ。(石川)

▲今月はかなり澤山良い原稿が集つて、勢ひ締切後のものは來月號に廻すことにした。

▲猪俣津南雄氏は、社會主義の社會に就て原稿を下すつた。難しい學説を誰にでも解る樣に懇切に書いて下すつた事は、讀單に代つて謝意を表しておく。

▲前田河廣一郎氏のアメリカ奇談は一山堂から單行本として出版されるのをまげて御寄稿して戴いた絶好の讀み物である。

▲來月號からは小川未明氏の小説寄野季吉氏の名論を掲載する。

▲いつも口ぐせに云ふてる通り、「進め」は無產大衆に解放した雜誌である。あまり有名者にのみ頼らず、無名青年の熱ある所を望んでゐる。地方青年の寄稿を切に待つ

▲いろんな行きがかりで、大衆の團結どころか、分裂に次ぐに分裂を以つてして來た。吾々の運動もこゝらあたりの行き詰りを一段落に、どうしても結束して行かねば階級の死滅に赴く樣な破目に至つた。

▲でも心配はいらなく、よの中は常に鍵全に進んで行く、退步は絶對にない。行き詰りも、新しき階段への飛躍の前程だ。

▲小助の校正は全然ゼロだと云ふ事らの定評があるので、今月は少しく自重し、盟友辻山樋口の兩君にお願ひした。

▲どうも、いつも勿らの事だが編輯はうまくいかない。われながらつくづくとあきれてしまう。

▲それで讀者諸君はていさいを見ないで、字を讀んでもらひたい。願くは、その意氣を讀んで與れ。

▲六月も來た。そろそろ一枚の裕衣で暮らせる。何んのことはない上の一枚ぬいで下着だけ瘦せはよい、多は來ないで與れ。

▲治安法が布かれて、夏が來た。少し涼まうかね。(虎之門小助)

會計規約

會計係では事務の都合上右の如く規定を設けてありますから左樣御承知下さい。

一、雜誌に關する問合せ又は注文等は必ず會計係宛になす事
二、住所氏名は明瞭に書く事
三、見本希望の向は切手十錢を封入して申込む事
四、誌代は成可く六ケ月分以上前納する事
五、集金郵便、代金引換郵便等にての送本は斷る
六、誌代切れ或は誌代前納なき場合は一切送本せざる事
七、誌代拂込は出來得る限り振替を利用し振替の惡き場合は爲替又は切手を用ふ事(振替の通信欄には用件を明記する事)
八、振替にて拂込む場合は振替口座東京六九八五三進め社本部へ、尚一切の用件は 東京本部宛にする事

東京市芝區三田四國町二
日本勞働總同盟本部發行
月刊 **勞働**
關東同盟會機關紙
(組合員外一部二十錢)
電話高輪三二九〇番
振替東京三二一五七番

小作人の法律顧問
小作人パンフレット發行
農村勞働問題の調査
大阪市東淀川區十三南ノ町
小作人社
振替大阪六九〇七二番

大阪市北區西野田江成町
勞働者新聞社
半月刊 **勞働者新聞**
日本勞働總同盟
關西同盟會機關紙
(一部五錢)

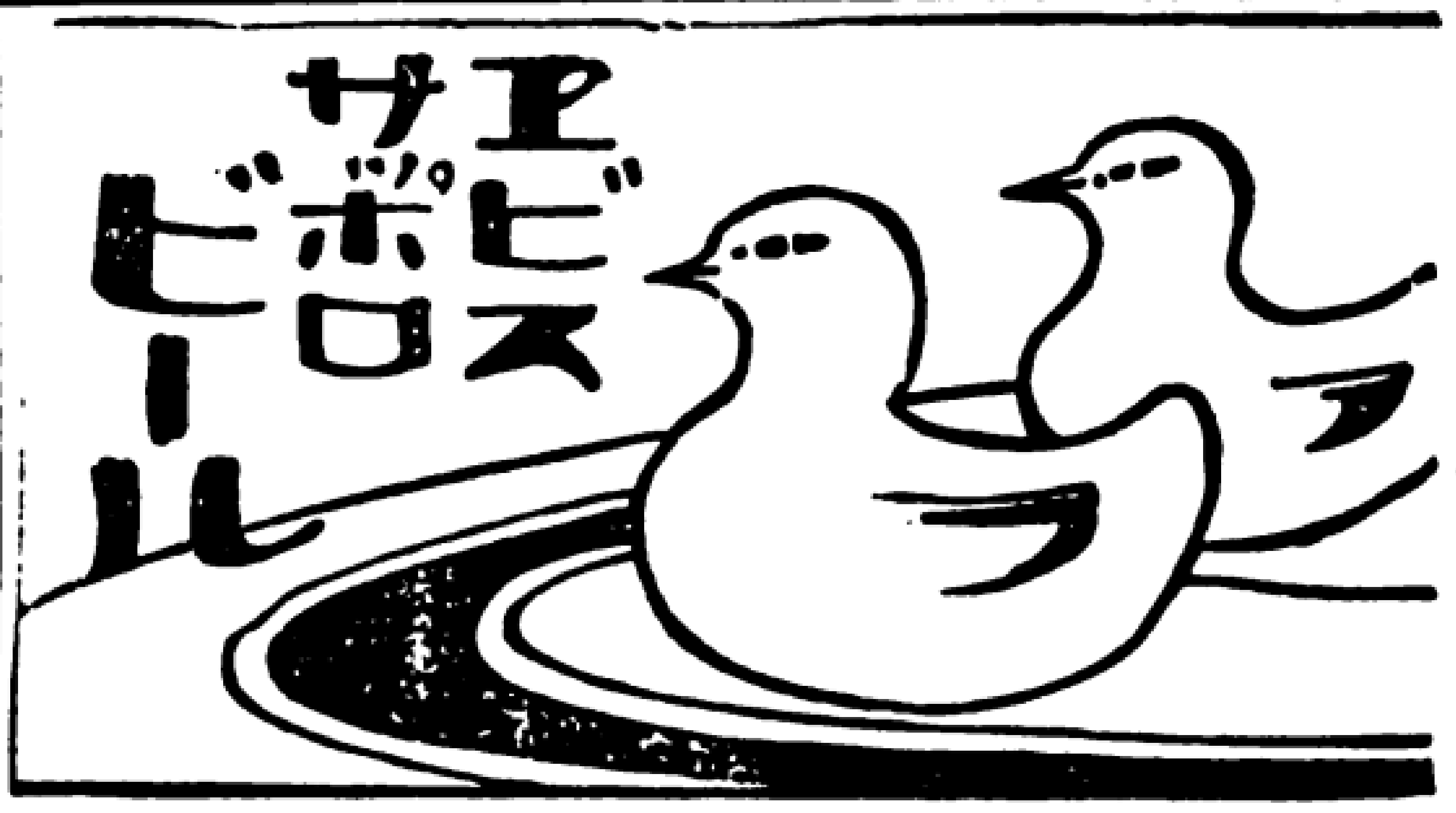
行政長藏著
百姓は何故貧乏するか
大阪市北區西野田江成町
日本農民組合本部

「進め」讀者法律顧問
赤坂表町一丁目一番地(辨慶橋前)
辯護士 辨理士 法學士
久保山武雄
電話高輪五〇五四番

新聞雜誌其他の印刷
東京市芝區新櫻田町十九
自由活版所
所長 岡千代彥

東京府上駒込染井八
振替東京五〇五八五番
鑛山勞働者
全日本鑛夫總聯合會機關紙
(一部二十錢)

大阪市北區西野田江成町
日本農民組合本部
月刊 **土地と自由**
日本農民組合機關紙
(一部十錢)



進め社販賣書籍

◇御注文は必らず前金の事
◇着金後三日以内に送本致します
◇引換、集金郵便等の御注文はお斷りします

著者名	書名	定價	送料
カウツキー原著 高畠素之譯	マルクス資本論解説	三、〇〇	、一七
ラッセル著 前田河廣一郎譯	ボルシェビーキの理論の實際	一、八〇	、一〇
リプクネヒト著 新明正道譯	軍國主義論	一、五〇	、一〇
グリンウッド著 大日方酉澤譯	英國勞働法解説	二、五〇	、一〇
カーカップ著 内山賢次譯	社會主義讀本	七〇	二
ゾムバルト著 池田龍藏譯	社會及び社會運動	三、〇〇	、一七
リュイヌ著 高畠素之譯	社會主義社會學	二、五〇	、一〇
リプクネヒト著 村上正雄譯	マルクスの逸話	一、三〇	六
ベーベル著 村上正雄譯	社會主義と婦人	九	四
圓谷弘著	資本家階級の發達	二、〇〇	八
ボグダーノフ著 赤松克麿譯	經濟科學十二講	二、八〇	一、七
高橋龜吉著	經濟學の實際知識	二、〇〇	、一二
室伏高信著	社會主義批判	二、四〇	、二〇

社會主義用語辭典

醒めたるプロレタリアート必携の書

▼サン・シモンやロバート・オーエンの空想的社會主義の時代から、第三インターナショナルが現實の世界に深刻なる脅威として出現するに至るまで「社會主義」てふ言葉は既に一世紀の間世界に喧傳されて來た。この一世紀が社會主義を智識的迷妄から解放した。恐怖と疑惑との眼から、故もなく「怪物」視せられた社會主義は、今や社會進化の途上に於ける不可避の道程として且つ又經濟學上の巨大なる定說として認識されるに至つた。かくて大學の講壇上に於ては「學」としての權威を以て迎へられ、階級戰の陣頭に於ては資本主義の搾取に哭く無產勞働者の行手の光として輝きつつある。「學」としての社會主義は人類の現在及び未來に對する冷靜透徹の批判を持し實行としての社會主義は世界の不義と不合理とを燒き盡さずんば止まざる火の如き熱情を喚起する實に現代の青年の智識と感情を刺戟し鼓舞すること社會主義の如きは無く、また社會主義を離れて現代の青年は生くる所を得ないといふも過言でない。決河の如き世界の大勢としての社會主義、思想史の上に空前の一大體系を形成せる社會主義、その社會主義に關するあらゆる用語を一卷に集錄して、それに詳細明確なる解釋を附し、辭典に兼ぬる社會主義全般の内容を具へた書籍が又して青年の間に待たれてゐた。茲に本書が出版されるに至つたことも亦社會主義運動の一つの機運を表象するものに外ならない。

□本書は社會主義に關する用語を出來るだけ多く集錄し且つ出來るだけ詳細に解說した——廣く社會主義の常識を普及する目的をも兼ねて之を通讀すれば思想の全體に通じ得るやうにした。

□——社會主義を廣義に解釋しあらゆる黨派に偏せず無政府主義から議會的改良主義に至るまで一切の思想を包容した。

□——各用語を五十音順に排列し索引を引けば直にそれぞれの語の意味を理解し得るやうにした。

□——全部六號活字をもつて組み小冊にして多量の内容を收め以て定價の至廉を期した

□本書はかくて坐右に具へれば辭典の用を爲すべく一讀すれば社會主義の教本たるべし

定價金六十錢 ・申込至急・・・・

東京市芝區櫻田久保町一九

大洋社出版部發行

◇社會主義　◇圖書雜誌
◇社會問題　◇パンフレット
◇勞働問題　◇リーフレット
◇婦人問題　◇書籍雜誌

新橋堂書店

大阪市此花區中江町
新橋南詰

金銀

白金

德力本店

東京市神田區松田町

仁丹

通俗知識叢書

◇御注文は前金でねがひます
◇引換、集金郵便等はお斷りします
◇尚進め社へ御注文下さるも可

◇第一編 普選と今後の形勢（定價廿錢送料二錢）

◇第二編「性」の進化（定價卅錢送料二錢）

◇第三編 婦人參政權運動　近刊

◇第四編 富豪の裏面　近刊

東京市外池袋一二九山川亮方

發行所 通俗科學普及會

政治研究

六月號

定價金參拾錢

▽農村振興と小麥關稅問題……中澤辨次郎
▽兌換制不必要論……稻垣守克
▽非政黨同盟の綱領……下中彌三郎
▽政治研究會大會の雰圍氣……布施辰治 宮崎龍介
▽農民の政治的地位……稻村隆一
▽改正町村制と農民の政治運動……松岡二十世
▽勞農露國の石油政策……多伊 多賀
▽時評（山崎一雄、片山哲、三輪壽壯、島中雄三）

發行所 東京四谷荒木町八 振替東京六六六一五番 **政治研究會**

猪俣津南雄著

金融資本論

四六判上製四百五十頁

定價貳圓六拾錢

送料書留十八錢

内容要目

第一篇 貨幣、資本、信用

第一章 貨幣
社會的生產と貨幣の必要—商品の價値—價値尺度としての貨幣

第二章 資本
資本と剩餘價値—資本利得と資本形態

第三章 信用
信用關係の諸相—資本信用

第四章 銀行と產業企業
銀行信用—銀行集中

第二篇 金融資本

第五章 會社企業と株式資本
株式資本家(株主)—擬制資本と發起利得—株式取引所

第六章 會社財政と銀行
株式企業の强所—銀行の地位—所有集中と企業集中

第七章 銀行利潤と銀行資本
資本金と收益力—銀行資本增大の歸趨

第八章 獨占
資本淅出の困難—競爭廢止と銀行—獨占的結合成立の時機—企業結合の種類及び形態—市場支配と其要件

第九章 金融資本の成立
資本家的獨占と銀行—金融資本

第十章 金融資本の歷史的傾向
カルテルの波及性、カルテル利潤—金融資本主義の歸趨

第三篇 金融資本の政策

第十一章 貿易政策
貿易政策の進化—獨占保護關稅の成立

第十二章 資本輸出
資本輸出と其必要—資本輸出の進化—經濟地域の爭奪(資本帝國主義)

第十三章 金融資本と諸階級
土地資本階級の復興—中間階級の纖弱化—サラリーマンと其位置

第十四章 金融資本の勞働政策
經濟鬪爭と其戰術—資本職體の成立

第十五章 結論

索引

◇本屋は出版した本が賣れさへすればよいのだ。が、本屋の誇りは本當にいゝ本を出してそれが飛ぶやうに賣れて行く時にある。
◇今度の本を出す迄の希望閣の氣苦勞は並大抵ではなかつた。著者の所へは文字通のお百度を踏む。

約束の日も過ぎてから半年足らずの間何時行つて見ても懸命に筆を執つてゐた著者は、同じ言葉を繰返すだけだ。それは事柄自體が極めて重要で而かも六ケ敷い。それをマルクスを讀まない者にも解らせたいと思ふから骨が折れる。いゝ加減な物なら出さない方が增しだ、と。さう言はれると一言もない。そしてスッカリ著作やつれのした著者の顏を見ると大人しく引下るより外はなかつた。
◇原稿を貰つてからが又ことだつた。少しの難解少しの曖昧をも許さぬ著者は、更に數十頁を組かへさせ、すべて六校まで校正をとらせた。そうして曰く、それは絕對的必要の智識のひろき普及の爲めの本だから標準よりも二三割方安い定價にして欲しいと。
◇著者の話では、此頃の資本主義は其重心が金融關係に移つたのだといふ。さう言はれて見るとさうとしか思へぬが、實際の處もはや個人企業と自由競爭の時代は去つて企業結合と獨占の時代に入り、商工資本の支配權は銀行資本に歸してゐるのださうだ。

發行所 東京市外代々幡々ケ谷三〇四
振替東京六七五一九番
希望閣

◆休刊の處新鋭を鐘めて復活◆

文學運動の共同戰線
無產階級文學の指標

文藝戰線

六月號出づ!

定價 二十錢

東京市外雜司ケ谷龜原五四
直接注文申込
山田清三郎宛

蝠蝠印

日本石油株式會社

大丸呉服店

大阪　京都　神戸　金澤

東京驛前

サン瓦斯入電球

電氣が少しで丈夫で明るい

良いものは結局お徳

大阪市外大仁七〇

大阪電球株式會社

電話土佐堀長 三一六〇 三一六一 三八二一 三八二二

無產階級解放運動雜誌

解放思想

□無產階級解放思想の研究批判。
□內外解放運動の報告批評。
□團體又は個人の意見消息。
（右に關する寄稿歡迎）

解放文藝

□文藝による解放運動。
□解放に關する文藝運動。
□プロ文藝及文藝家の批評批判。
（投稿募集）

解放法律

□法律による解放運動、解放に關する法律裁判の研究報道論評、
□創刊號は天下の最大惡法違警罪即決例を取扱ふ。不拘留不正式裁判申立に關する不當處分を周知實驗せる人々の報告感想の投稿を熱望。

再版解放

思想版　文藝版　法律版

△支社主任募集、詳細は照會を要す。
△大部數の注文は特に大割引す。
△七月末第一再版發行

各版各十五錢一册

各誌共一部各卅錢宛・一年各三圓三十錢宛

各版各一年一圓半

三誌一年分の注文者には二圓の[illegible]呈上

再版每月末發行

六月五日締切・六月廿日發賣・七月一日發行

東京芝新櫻田町　解放社　振替東京三六九四四

The Su-su-me Socialists Monthly.
H:ad•office No•19 Sakurada-Kubocho Shiba Tokyo.

不斷の努力を捧げて

絶えず品質を精選し、價格は低廉に、趣味と實用を標語として、常に社會の趨勢に鑑み、時世に適應して改善に改善を加へつゝ、不斷の努力を續けてをります當店は、店內の諸施設、店員のサービスに於ても萬全を期し、只管顧客各位の御滿足と御愉快を以て直ちに當店の喜びと致してをります、何卒御休憩旁々御光來の程偏に御願ひ申し上ます。

地方よりの御註文は通信販賣部宛に願ひます、尙その御手引さして御便利なる當店發行の「三越カレンダー」御申越次第御送附申し上ます。

大阪・高麗橋

三越呉服店

良品廉賣

松坂屋

いとう呉服店

大阪市日本橋三丁目
名古屋市中區榮町

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 ◇毎月一回 ◇定價一部十錢(税五厘) 發行所 東京市芝區櫻田久保町一九(振替東京六九八五三) 進め社本部